

ゆうかり

第19回移住者子弟一般技術研修員
研 修 レ 報 告 書

1991年11月

国際協力事業団

移 国

JR

01-16

ゆかり

第19回移住者子弟一般技術研修員
研 修 レ ポ ー ト

JIKKA LIBRARY



1094809(9)

23122

700
237

1991年11月

ま え が き

国際協力事業団では、中南米各地の移住者子弟を本邦に招致し、その子弟の属する地域社会の発展に必要な技術および知識を修得せしめることを目的に移住者子弟一般技術研修制度を実施しています。

この制度は昭和46年度に開始され、受入れた研修員は、現在研修中の第20回生および第21回生を含め、総数470名に達しています。

本誌は第19回生（研修期間：18カ月コース平成元年4月～平成2年9月、24カ月コース平成元年4月～平成3年3月）の研修総括報告書をまとめたものです。

研修員は幼い頃両親に連れられて移住した人、あるいは中南米の地で生まれた二世、三世の人達の中から選ばれた者ですが、父母あるいは祖父母が生まれ育った国における研修は単に技術を身につけるということだけではなく、日本の文化そのものを学ぶ良い機会ともなっています。研修員諸君は帰国後、日本の社会の中で体得した技術と知識を生かし、移住地および地域社会の発展に貢献するとともに日本および中南米諸国とのかけ橋となって活躍されることと確信いたします。

最後に、移住者子弟一般技術研修制度に深い理解を示され、研修員を温かくご指導くださいました関係機関の皆様に改めて感謝の意を表する次第です。

1991年11月

国際協力事業団
移住事業部長

目 次

まえがき

研修総括報告書（18カ月コース）

1.	井上レオナルド	（アルゼンティン	ホセC. パス	）	1
2.	佐々木レオナルド パブロ	（	”	モレーノ	2
3.	皆川政人ヴィクトル	（	”	エル・パット	4
4.	片淵レイナルド	（	”	アンデス	7
5.	池田 勇 人	（ボリヴィア	サン・ファン	）	9
6.	山城 淳	（	”	オキナワ第2	11
7.	比 嘉 久 美	（	”	オキナワ第1	13
8.	大村昭仁エウリコ	（ブ ラ ジ ル	イガラッペアス	）	15
9.	村 上 賢 治	（	”	マナオス	17
10.	早川千恵美エレナ	（	”	インクラ	19
11.	梶 寛希テモテ	（	”	ベロ・オリゾンテ	21
12.	船 木 正 行	（	”	クビチェック	23
13.	高橋 巖ネルソン	（	”	サン・パウロ	24
14.	佐々木ユリ センリア	（	”	サン・パウロ	26
15.	豊田陽子ソーニャ	（	”	ピラール・ド・スール	29
16.	佐伯博幸ジルソン	（	”	グェタバラ	32
17.	角本忠義ネルソン	（	”	モジ・ダス・クルーゼス	35
18.	須田健示カルロス	（	”	カッボン・ポニート	36
19.	高橋 稔 ジョン	（	”	バストス	37
20.	鈴木セリーナ	（	”	モジ・ダス・クルーゼス	40
21.	国府三郎ルイス	（	”	マリアルバ	42
22.	古賀百合ルス アンヘラ	（コ ロ ン ビ ア	カリ	）	43
23.	八 巻 和 雄	（ドミニカ共和国	サント・ドミンゴ	）	45
24.	小 林 ベニト	（メ キ シ コ	メキシコ	）	51
25.	宮本浩一エドゥアルド	（パラグアイ	ラ・コルメナ	）	53
26.	渡辺正寿ロベルトクロービス	（ベ ル ー	ブカルバ	）	55
27.	宮崎アレハンドロ フリオ	（	”	リマ	58
28.	宇田川 智 代	（ウルグァイ	モンテヴィデオ	）	59
29.	児玉寿夫アレハンドロ	（ヴェネズエラ	カラカス	）	61

研修総括報告書 (24カ月コース)

30. 比 嘉 はるみ	(ボ リ ヴ ィ ア オキナワ第1)	67
31. 清水ネルソン靖夫	(ブ ラ ジ ル ベレーン)	68
32. 門 脇 徳 美	(パ ラ グ ァ イ ペドロ・ファン・カバリェロ)		70
33. 宇都本 恵	(“ エンカルナシオン)	73
34. 四 方 美紀子	(“ アルト・パラナ)	74

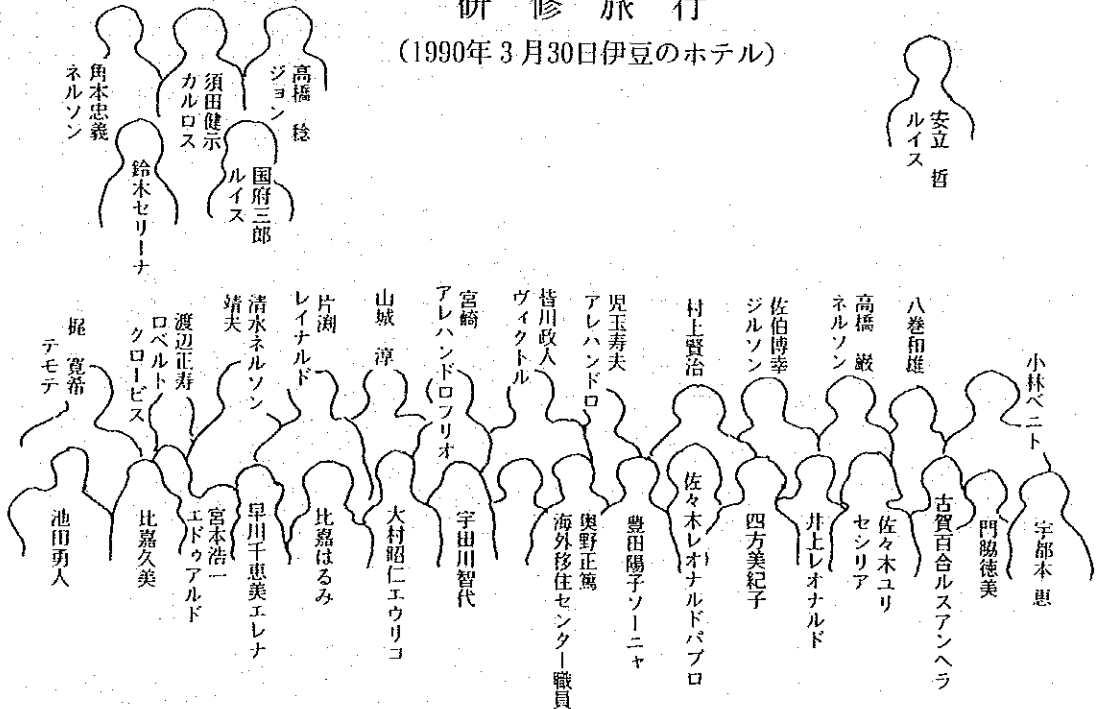
第19回移住者子弟一般技術研修員一覧表	79
---------------------	-------	----

注：安立哲ルイス（ブラジル サン・パウロ）は1989年6月16日に早期帰国し、研修総括報告書は作成していない。



研修旅行

(1990年3月30日伊豆のホテル)



研修総括報告書（18カ月コース）



1. 研修機関 (1) 前期 香川大学農学部附属農場
(2) 後期 田坂洋ラン園
2. 研修期間 平成元年4月～平成2年9月
3. 研修職種 花卉園芸（植物の繁殖方法と栽培管理）

4. 当初の研修計画

組織培養と、ランの栽培管理について学ぶことでした。

5. 研修概要

平成元年4月5日から香川大学農学部附属農場で1年の研修を受けました。農学部では、園芸植物の最新技術を学ぶことができました。

前期研修：

1. 学部で「花卉園芸学各論」と「花卉園芸学総論」の講義を受けました。

2. 観賞植物の挿し木繁殖

ユリノキ、ゴムノキ、クルメツツジ、ジャスミンなど樹木の挿し木。

リーガスベゴニアとデンドロビウムの葉片または茎挿し。

3. 観賞植物の開花調整

リーガスベゴニアの生長と開花に対する日長処理の影響。

ツバキの開花に及ぼす植物調整物質の影響。

4. ランの組織培養による繁殖

シンビジウム、デンドロビウム、ファレノプシスの茎頂培養およびエビネ、カトレア、ファ

レノプシスなどの種子繁殖

後期研修：

平成2年4月5日からは、岡山県の田坂洋ラン園に変わり、当農園では、デンドロビウムの栽培管理全般について学ぶことができました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

計画では、観賞植物の組織培養と観賞植物の挿し木繁殖でしたが、農学部では、計画している以上の内容について研修ができました。

後期の研修は、デンドロビウムを専業としている農園に研修先を変えていただきデンドロビウムの栽培管理について研修ができました。

7. 合同研修会について

この一年半に行われた3回の合同研修会では、仲間と会うことが何よりの楽しみでした。特に初めの6ヵ月間は、まだ日本の生活や習慣にも馴染めないため、皆横浜センターに集まって仲間同士がそれぞれ研修先のことや、悩みごとなど色々な面でお互いに話し合ったり、相談に乗るこ

とができ、皆といい友達になるチャンスとなりました。

また7月の合同研修会は、北九州で行われましたが、研修生と各地の担当者の個人面談では、研修先の色々な問題を話せますから今後も続けてください。

8. 本邦での生活状況

初めの1年は、アパートで生活しました。食事は、時々自炊をしたり、外食もやりました。アパートの大家さんには、何から何まで色々とお世話になりました。特に不自由は有りませんでした。後期の半年は、研修先で下宿生活しました。しかし家族の人達との生活習慣に慣れるまで大変でした。ここでは、お互いに気を遣いながら生活することについて体験することができ、とてもよい勉強になりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

1. 日本語の読み書きと専門用語をできるだけ勉強しておくことが大切だと思います。
2. 友達を作って、困っている時やホームシックの時に自分一人で悩まず友達あるいは、同級生と相談することが大切です。
3. 日本にくる前に研修計画を具体的に立てること。
4. JICA職員方がこんないいチャンスを僕達に与えてくれるからぜひ研修生も悔いの無いように頑張ってもらいたいと思っています。

10. 所感

日本へ来ることができたのは、何より嬉しいです。子供の頃から両親の生まれ育った日本を見たいと思っていた夢が叶って感謝しています。1年半で色々友人や世界中の人々に会うことができ国際親善ができていい思い出になりました。これからも自分のため、さらに国のために日本で学んだことを実行し、少しでも指導できたいと思います。このチャンスを与えてくれた国際協力事業団の皆様方、香川大学農学部附属農場の先生方、職員、田坂農園の皆様本当にありがとうございました。

佐々木レオナルドパブロ



1. 研修機関 (1) 前期 岡山大学農学部 作物発育調節学研究室 (89.4~90.4)
(2) 後期 岩手県 園芸試験場 (90.4~90.9)
2. 研修期間 平成1年4月~平成2年9月
3. 研修職種 花卉園芸

4. 当初の研修計画

新しい切花の栽培技術、特にカーネーションとキクを中心に日本の花卉園芸の技術を学び、そ

れがどのように一般経営に活かされているか実際に見学したり又植物の組織培養も学びたいと考えていました。

5. 研修概要

前期 岡山大学の学生と一緒に受けた講義は次のとおりです。

作物発育調節学	小西国義	教授
花卉生産学	小西国義	教授
園芸環境論	景山詳弘	助教授
施設生産学	安井公一	教授

又、特別講義として小西国義教授から、毎日1時間くらい一対一の講義を受けました。後期になると、1週間に2回くらいになりました。講義が減った理由は、先生が自分一人で勉強するようにといわれ、そしてわからない事があったら相談しにきなさいといわれたからです。そこで、後期は自分で勉強したい本をさがしてきたり、あるいは先生からプリントをもらったりして勉強をしました。

花卉研究室の研究圃場では、種子や球根を使って温度処理して開花調節に関する実験をしました。その実験の一つは、フリージアとスタチス・シヌアタを使って種子の春化処理をしました。この処理の目的は、なるべく早く切花をするためです。

その他に、キクの短日直接定植法、苗の冷蔵処理、植物の栄養繁殖、植物の水の吸収量を計りながらちょうどいい間際に水をやる方法など実験をしました。接ぎ木繁殖と植物組織培養も行いました。

それから大学では、その他にコンピュータの使い方も教えてもらいました。

後期は、岩手県の園芸試験場で研修をしました。

1. リンドウの育種
2. 小ギク、ストックなどの品種選抜
3. リンドウなどの栽培法の改善
4. 組織培養によるリンドウの増殖技術の開発

私は、これらの先生の試験の手伝いをしながらわからないところを質問したり、実際に試験をしました。新しい技術を学べたのでいい勉強になったと思っています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

日本での1年半の研修は自分の希望以上にいろんな勉強ができて良かったと思います。その中で大学のほうでは先生方の講義をきいたり、実際に農家を見学しにいて日本の一般経営者がどんな技術をもって栽培しているのかがわかるようになりました。それから先生方が直接経営者に指導している所を見て、大学の講義と違う話が聞けてとっても良かったと思います。

7. 合同研修会について

日本に到着してからの合同研修会で良かったのは、先輩からいろんなアドバイスを聞いたこと

です。しかし自分で実際に研修先にいったら生活について問題が出てくるので、出来れば研修を始めて2ヵ月か3ヵ月過ぎてから、合同研修会をしてもらいたいと感じました。皆を集めるのができなかったら、各支部で集まって問題点を相談したら良いと思いました。

8. 本邦での生活状況

大学では、友達がたくさんできて、食事は、だいたいいつも、一緒に行ったり、たまにはスポーツをやったりして楽しみました。

それから、大学の先生には、釣りに連れていってもらったり、たまには、先生の家に行って、家庭の食事をたのしめてとてもよかったです。

岡山の生活では、なにも問題はなく、逆に一人でアパート暮らしをしていたので、いろいろな手続きを全部、自分でやったことがいい勉強になりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来る前に、日本語を良く勉強したほうが良いと思います。一つの理由は日本に着いたらすぐ自分の研修先について、自分がやりたい勉強に取りくめるからです。

研修先では一人の先生の意見だけでなく、いろんな先生からの意見をきいたり、友達をたくさん作る事が大事だと思っています。

10. 所感

日本で学んだ事、新しい技術をアルゼンチンの花の経営者の人達に出来るだけ伝えたいと思っています。それから将来アルゼンチンで国際的に通用する花を作って輸出をしたいと考えています。

この1年半の研修期間を与えてくださった国際協力事業団の皆様、又研修先でお世話になった先生方、岡山大学の先生方、それから岩手県の園芸試験場の皆様に心から感謝をいたします。この期間中皆様のおかげでたくさんのいい思い出ができました。どうもありがとうございました。

皆川政人ヴィクトル



1. 研修機関 (1) 前期 神奈川県経済連中部自動車センター、
全農技術センター
(2) 後期 神奈川県経済連中部自動車センター、
全農技術センター、全共連
2. 研修期間 平成元年4月～平成2年9月
3. 研修職種 自動車整備

4. 当初の研修計画

日本の最新技術を学び、農業を営む日系人社会にとって必需品ともいえる自動車を迅速かつ正

確に整備する事により、少しでも地域の営農に役立てばと思い、研修に参加させていただきました。

又、日本という父母が生まれた地を知り、人々の考え方、文化などを学ぶ事も目的の一つでありました。

技術面では、主に次に述べる事が研修の計画でした。

- －整備技術基礎
- －整備工場経営方針
- －整備士資格獲得
- －自動車の用途、並国との違い
- －ディーゼルポンプの構造
- －ターボチャージャーの構造
- －オートマチックトランスミッションの構造
- －四輪駆動車の性能、構造
- －電子集中制御方式の機能

5. 研修概要

私の場合、会社での実技研修が主だったため、技術の習得が片よりのみでしたが、車検整備を中心に、次の事をやって来ました。

- －クラッチオーバーホール
- －ミッション脱着
- －ブレーキ装置分解、組立て
- －エンジン総合的点検、調整

又、一般整備では

- －エンジン脱着、オーバーホール
- －2ストロークエンジン機能確認
- －ECCS（電子集中制御方式）の故障探求
- －トランスミッションオーバーホール
- －6ヶ月、12ヶ月点検整備
- －車体整備一般

ここで特に力を入れたかったのは、ECCSですが、資材不足で独学だけで済ませた部分も多く、深く学ぶ事ができませんでした。会社研修で学べたのは、技術的な事だけでは無く、自動車の管理、保安基準、排気ガス対策などに関連してくる法規。整備工場を経営するにあたっての方針などです。実技研修以外に、色々な講習会などにも参加させていただきました、例をあげると

- －三級整備士養成講習
- －自動車工学基礎講習
- －新型車解説講習
- －車体整備技術講習

－板金見積り技法講座

－フロントマン高等教育講座

中でも、自分にとって一番大切だったのは、三級整備士養成講習であり、これによって三級整備士技能検定試験に合格することができました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

計画どおり運べなかった事もあるが、それ以上にできた事もあるので、良い結果が得られたと思います。

実技研修の中では実行できなかった計画も多く、どうしても車検や点検整備が中心になりがちだったのがとても残念です。

講習会は、みんなとても有意義なものばかりで、想像以上に役立つものも有ります。

資格獲得の計画は実現できました。

7. 合同研修会について

合同研修会は、やはり9月、4月、9月と6ヶ月おきにおこなうのが最適だと思います。それも出来れば移住センターで。なぜかという、センターは皆の家であるからです。合同研修会では、皆が集まり、語り合い、日頃の疲れをいやし、くつろげる唯一の場でもあります。又、研修に関する色々な問題点を追究し自分を再確認するのに大変役立ちます。

8. 本邦での生活状況

移住センターでの生活は、なにも不自由がなく、多くの国の人達と、一家族として毎日過ごして来ました。皆で食事を作ったり、なやみを語り合ったり、とても楽しい日々でした。

研修先の方々とは、飲みに行ったり、スキーへ行ったり、いままで体験できなかった事も、経験させていただきました。

この一年半を通じて、たくさんの人々とめぐり会い、その大切さを知り、色々な考え方を理解して、自分が少しずつ生長するのを感じました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これからも、多くの人々を受け入れ、私たちのように、素晴らしい体験をさせてあげてください。

要望としては、研修生とJICAのコミュニケーションをたやすくし、研修生が日常の問題点などを相談できるようにしてもらいたい。

10. 所 感

日本で一年半の研修を無事終えることができました。楽しい事はもちろん、苦しい事も、今思えば素晴らしい体験でした。人生の中での大切な一つのステップとも言えましょう。帰国後は、日本で学んだ事を最大限に生かし、もう一つ上のステップへと挑みます。

国際協力事業団をはじめ、経済連の皆様、全農技術センター、研修生の皆様、長い間のご指導心から感謝します。ありがとうございました。



片 淵 レイナルド

1. 研修機関 (1) 前期 旭無線商会 (佐賀県89.5~89.7)
(2) 後期 (株)ムラウチ (東京89.7~90.9)
2. 研修期間 平成元年4月~平成2年9月
3. 研修職種 家電修理

4. 当初の研修計画

私は小さい頃から電子に興味がありました。たまに近所のテレビなどの修理を頼まれることがありましたが、まだそれまでの自信はありませんでした。

そこで私は、家電の修理を学んで、アルゼンチンや他の国でまだ知られていない技術を身につけることが当初の計画でした。

- テレビ
- ビデオ
- CDプレーヤ
- 電子レンジ (少々)

5. 研修概要

平成元年7月に研修生として東京八王子(株)ムラウチに入社しました。

研修が始まり一カ月後にテレビの分解と組み立て方を指導されました。

8月にはサービスセンターは新しい建物に移り、実際にテレビの修理法の指導を受けました。

8月と9月は、酷い雷の被害を受けたテレビが数多くありました。一つか二つの部品を交換するだけで、直す場合もありましたが、メーカーによってそれぞれ違いがありました。

修理品が少ない時期もあり、テレビだけではなく、電子レンジ、ラジカセなどの修理をすることもありました。

半田の付け方、又は取り方は部品によって違い、その点を注意されました。

基本的な理論も勉強し、色々と修理している間に、配線図を追うことが出来るようになり、大変嬉しく思いました。

そして最後の半年は、ビデオとCDプレーヤについて理論、又は本格的に修理の仕方を学ぶことが出来ました。それについては、日本ビクター(株)でビデオ修理技術研修の実習をしました。

少しの経験を持ち、ビデオはテレビと違って、あまり熱を持たない器具なので、電子的な部分より機械的な部分の方が、故障しやすいことを知ることが出来ました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

当初の研修内容とは家電の修理が目的でした。

前期は旭無線商会で一ヵ月半研修しましたが、実際の研修計画とは全く違った事をしていました。家電の修理の研修先として(株)ムラウチに変えて頂きました。それからの一年三ヵ月は計画通

りに、研修をすることが出来ました。

7. 合同研修会について

合同研修会では子弟技術研修生全員が集ごうし、それぞれの研修内容や生活状況について話し合います。日本に初めて来た人もあり、祖国をはなれて生活をしている者にはやはり先輩や仲間との面会は重要だと思います。

そしてこれからは合同研修会は7月ではなく9月、つまり子弟研修が帰国する時にして頂きたいと思います。

8. 本邦での生活状況

この一年半を振り返ってみると、研修目的について満足しただけではなく、たくさんの友達が出来ました。それぞれ違った国からきているんな話をし、研修先でも大勢の人々と心から付き合うことが出来ました。

初めて日本に来て、実際に日本はどんな国かどんな国民かを知ることが出来ました。初めの頃は日本の生活に慣れずに辛かったんですが、一年位でやっとこの精神的に忙しい社会に飛び込むことが出来ました。

最後の一年三ヵ月は、移住センターで暮らしたので、友達とお互いに助け合って、不安はありませんでした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来る前、日本語の読み書きが完璧であるよう努力したら、研修や日本社会をもっと理解出来ると思います。

先輩の研修生といろんな話をしたり、日本の生活状態についてアドバイスをしてもらえよう、そういう機会を与えてほしいです。

10. 所 感

一年半の研修で色々と知識と体験を持ち、一生忘れないことでしょう。これから母国へ帰って、日本で身に付けた家電修理の技術を生かしたいと思ってます。現在のアルゼンチンでは、経済的に不安で就職したいにも希望どおりに行かないと思いますが、頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、国際協力事業団の皆様、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。本当にこの一年半大変お世話になり、ありがとうございました。



1. 研修機関 (1) 前期 佐賀県中部家畜保健衛生所
(2) 後期 佐賀県畜産試験場
佐賀県経済連養鶏センター
佐賀県中部家畜保健衛生所
2. 研修期間 1989年4月～1990年9月
3. 研修職種 養鶏
 - － 疾病について
 - － 鶏飼料配合設計
 - － 鶏飼養管理技術
 - － フラン技術

4. 当初の研修計画

当初の研修計画は、できるだけ養鶏（疾病について）学ぶこと、それに日本の文化、習慣や日本語を覚えること、などが一番の目的でした。あとは、祖父母の故郷を訪ね父母が日本にいたころの生活とかいろんなことをもっとしりたいという気持ちを強くもっていました。

5. 研修概要

1989年5月15日から1990年3月31日まで佐賀県中部家畜保健衛生所で鶏の疾病について研修しました。

研修内容は、

細菌

- － 培地の作り方と培養法
- － 細菌学的検査の手順
- － 細菌同のため各種生物学的性状について

病理

- － 病理標本の作り方
- － 組織について
- － 病理組織学的変化について
- － 病理組織標本の鏡検方法
- － 同定液の作り方
- － 血液検査

ウイルス

- － 検査器具の滅菌方法及び消毒方法
- － ウイルスの分離同定
- － 鶏腎細胞培養
- － 発育鶏卵接種方法

- 血清学的検査(ND)
- 寒天ゲル内降反応(IB, IBD, MD)
- 中和試験 (IB)

1990年4月1日～5月31日、佐賀県畜産試験場

畜産試験場では飼養管理及び飼料配合設計について研修する予定でしたが、飼料配合については、出来ないため管理だけについて研修しました。

研修内容

- 鶏の管理
- 鑑別, デビーク
- 卵室検査
- 鶏の解剖の手順
- 鶏の処理加工方法 (くん製, ソーセージの作り方)

1990年6月1日～23日まで佐賀県経済連養鶏センターで1ヵ月間の研修でしたが足のネンザのため、研修先まで通勤が出来なかったため2週間になりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

希望していた以上の研修を受ける事ができたと思っています。研修先に着いて先生達といろいろ話し合っってプログラムを作りまして、僕が一番勉強したいこととか自分でいろいろ決めることが出来たのでとても良かったと思っています。

7. 合同研修会について

合同研修会は、僕達にとっては一番必要だと思いました。僕達にとって一番の楽しみでもあり、研修生のいろいろな意見、問題を知ることができ、ストレス解消にもなると思っていますので大切にしたいと思います。

8. 本邦での生活状況

僕は一年半下宿で生活をしました。全然知らない人と住むことは、初めてだったので、違ったものが多く、その中に入り慣れるまでは大変でした。僕の住んでいたところの家族はすごく話のわかる人でぜんぜん問題はありませんでした。たまには一人でアパートに住みたいなあ～というぐらいの考えもしました。僕は、アパートに住むよりか下宿に住むほうがいい勉強になると思いました。アパートに住むと一人なので自由なのでその面ではいいと思いますが、下宿では日本人の家族と一緒に暮らすので日本人の生活、習慣とかを見ることが出来るのでとてもいい勉強になると思いました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- 自分の目的をはっきりすること、自分でプログラムを作り、したいこととか自分の希望をはっきりしておくこと。
- 日本に来る前に日本に研修生として来た経験のある人と話し合うこと。

一 自分の国のことをできるだけしておくこと、または歌とか踊りとかを多く知っておくこと
めになると思います。

10. 所 感

僕は日本に来ることが小さい頃からの夢でした。日本に来て見るもの聞くものがなんでも珍しく感じました。ボリヴィアで考えていたことと、実際に見るものとは大変な違いがありました。例えば日本は小さな国で小さな所に住んでいると聞かされていましたが、それは東京とかそういう所だけであって、田舎に行くともだまだ広い所が沢山あると思いました。

日本の高校生との研修会に参加することができ、ボリヴィアのことを少しでも話すことができたこと、日本へ来て養鶏はもちろん多くのことを学ぶことができました。またボリヴィアから離れて、今までは内側からしか見ることができなかったボリヴィアも外から見ることができ、いまままで気づけなかった所や悪い点、良い点に分かるような気がします。これからもボリヴィアのため日系人のために頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが国際協力事業団、佐賀県中部家畜保健所、佐賀県畜産試験場、経済連養鶏センターの皆さん一年半の間いろいろと大変お世話になり、心から感謝申し上げます。本当に有り難うございました。



山 城 淳

1. 研修機関 (1) 前期 アジアハム株式会社
ホームル株式会社
(2) 後期 沖縄畜産株式会社
2. 研修期間 平成元年4月～平成2年9月
3. 研修職種 食肉加工

4. 当初の研修計画

私はコロニア・オキナワ農牧総合協同組合(CAICO)に勤めていましたが、小さい頃から先進国である日本でなにか技術を勉強したいと思っていました。

移住地では現在若者達が日本へ出稼ぎに行く中、農業だけでは先がくるしくなるので、何か少しでも変化がなければと思い、組合が食肉加工工場の建設があると聞き、ぼくは日本の進んだ食肉加工の技術を学びたいと思い国際協力事業団移住者子弟技術研修制度に応募しました。

5. 研修概要

私は沖縄県で1年半の研修を受けました。平成元年5月～10月アジアハム株式会社で原料整形にて包丁の使いかた、肉の整形など。加工ではスタッファーで原料充てん、スモーク、ハンバーグなど。包装では真空パック・スライス・ピーラー・食肉原価計算、それから沖縄県食肉センタ

一株式会社見学。

11月～平成2年3月ホーム株式会社。養豚畜産見学，と殺所，原料整形豚肉・牛肉。加工では，コンボースタッフラーで原料充てん，ミキサー，漬け込み，インジェクション サイレントカッタースモーク殺菌データー。缶詰機・丸缶・角缶・レトルト殺菌・缶洗機。QCでは衛生管理・開発。

平成2年4月～9月沖縄畜産株式会社

加工で串刺・スタッフラー・コンボースモーク真空パック・バクバク

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

組合をとおしてこの研修を受けたので，日本へ来る前は自分の思いどおり希望を実現できるかと不安な気持ちでした。しかしこの1年半を通して，自分の希望以上のことをいろいろ学び知る事ができ，とても充実したと思います。

7. 合同研修会

沖縄県は小さいので2日もあればほとんどの所は見学できるので合同研修会は本土を見学したり，日本の勉強をしたり，同じ研修生達のそれぞれの研修先での体験を聞いたりできることから，大切だと思います。また，九州での合同研修会も九州を知るため良いことと思います。

8. 本邦での生活状況

最初の1ヵ月半は海外移住センターで南米の各国の皆さんと生活し楽しい1ヵ月半でしたが，この期間もあつというまに過ぎ私は両親の故郷である沖縄県にきました。

沖縄では，アパートで初めての自炊生活なので不安でしたが，沖縄支部の皆さんもとても親切で，自炊生活に必要な物はほとんどそろえてもらいましたので，とくに困ることはありませんでした。

また，ボリヴィア出身の同期の友達が部屋をたずねてくれて寂しい思いはしませんでした，研修先の皆さんも親切でして，ホームシックもかからずにすみました。

それから沖縄県ボリヴィア学生援護協会，ボリヴィア学生友の会でいろいろな活動に参加しながらお世話になり，楽しい思い出を沢山つくりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来る前に日本語の読み書きを少しでも多く勉強して来た方が研修内容が充実すると思います。研修の目的と自分の希望をはっきりさせ，やる気と根気を持ち頑張れば研修はうまく行くと思います。また自分の国のことはある程度知っておくことです。それから横浜の海外移住センターで日本語講習を受けるようにする。

10. 所 感

私は平成元年4月に国際協力事業団，第19回生移住者子弟技術研修生として日本に来れたことは，この24年間の私の人生の中で一番いい1年半だったと思います。日本での1年半の研修は長いようで短く感じましたが，南アメリカの各国の研修生達と知り合うことができ，また，沢山の

日本人を知ることができたことは私にとってもプラスになり、かけがえのない思い出になりました。

帰国後は日本で学んだ技術をボリヴィアの沖縄移住地のコロニアオキナワ農牧総合協同組合(CAICO)で生かしたいと思っておりますので、どうか今後とも宜しくお願いします。

また、私達日系人にとっては日本で何か技術を勉強することは夢ですので、この制度の輪を広げていただき多くの日系人にこの研修を体験してもらいたいです。

最後になりましたが、日本で無事研修を終えることが出来たことは国際協力事業団の皆さんを初め、沖縄支部の方々、アジアハム株式会社の皆さんホームル株式会社の皆さん、沖縄畜産株式会社の方々、それから沖縄県ボリヴィア学生援護協会の皆さん、わがままな私を本当に長い間いろいろ面倒を見て下さいまして心からお礼申し上げます。ありがとうございました。



比 嘉 久 美

- | | |
|---------|----------------------------|
| 1. 研修機関 | (1) 前期 和泉短期大学
(2) 後期 同上 |
| 2. 研修期間 | 1989年4月～1990年9月 |
| 3. 研修職種 | 幼児教育 |

4. 当初の研修計画

幼児の精神、身体の発達段階を把握した上で、いろんな指導ができるようになること。
ピアノが弾けるようになること。

5. 研修概要

和泉短期大学にて、一年半こちらの学生と同様に学んできました。

この一年半の間に受講した科目の中には、初めて耳にする科目や言葉も多く、最初の頃は、時差ボケもあって、先生の言っていることが、半分も頭に入らず、どうしようかと思いました。まず一年時に受講した科目として、児童福祉学、社会福祉原論、保育原理、教育原理、小児科学、発達心理学、教育心理学、実習A(見学)キリスト教学概論、美術、教育学、生物学、体育理論、体育実技、教育実習、社会福祉、保育音楽Ⅰ(声楽)、保育音楽Ⅲ(ピアノ)、図画工作Ⅰ、小児体育Ⅰ(リトミック)があり、2年目に入ってから、健康Ⅰ、自然Ⅰ、絵画製作Ⅰ、言語Ⅰ、音楽リズム、心身障害学、精神衛生、教育実習、児童文化、小児体育Ⅱ(リトミック)、保育音楽Ⅳ(ピアノ)、幼児教育理論、家庭運営、国語がありました。

児童福祉科の短大なので、福祉について重点をおいた講義がほとんどでした。福祉という言葉の意味さえしなかった私には、その重要性和、多くの方々がそれを必要としていることを一度に知られました。確かに南米の方では、福祉に関しては、今のところまだそんなに深く考えてい

ませんが、それを必要としている人は多いように思います。本当にボリヴィアでも働いている子ども達も多いので一日も早く、みんなが幸せに暮らせるようになればなあと思います。

やはり一番、身についたのは、理論を学んだ後で、又はいろんなことを理解した上で、幼稚園、保育園、施設等で実践を通して学んだことです。確かに理論的には、こういう場合には、こうすればいいんだとわかって、実際には、スムーズにいかないのと、とまどうこともたくさんありましたが、そういう経験を通してこそ、教諭として保母としての技術を磨きあげていけるのではないのでしょうか。

卒業できなかったのは、残念に思いますが、学ぶことが多く有意義な一年半でした。

6. 当初研修計画と実際の研修内容とを比較して

和泉短大そして、いろんな保育園、幼稚園、施設等で、予想以上のことを得ることができました。いつも反省させられていたことは、ピアノのことです。毎日楽譜とにらめっこをして、なんとか音譜も読めるようになりましたが、弾き語りとなりますとまだまだという感じです。しかし短大の方でも、ピアノの先生が親切に指導して下さり、とてもよかったです。

7. 合同研修会

私は、来日した2日目から短大へ通ったため、最初の合同研修会も9月に行われた時も、大学のことがあって参加できなかったのが残念ですが、横浜のセンターに住んでいたため、みんなには会えたので、地方に行った研修生の研修先の話とか、いろいろ聞くことができ、「みんな頑張っているんだ」ということが、すごく励みになりました。

又、今年は、7月に合同研修会が行われたので、大学もちょうど夏休みで、初めて参加することができとてもうれしかったです。やはり、合同研修会は、全員が参加できると良いですね。

8. 本邦での生活状況

日本で過ごした一年半は、本当に最高でした。センターには、いろんな研修生が集まるので、大勢の方々と交流がもて、いろんなことを知ることができて、うれしいです。お陰様で、ホームシックにもかかることなく、大学の友達にも恵まれていたので、充実した日々をおくることができました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私の、幼い頃からの夢をかなえてくれたこの制度、これからもずっと続けて頂きたいと思います。それから、これは、勝手なお願いかもしれませんが、二年間で、資格や免許を取得できる職種に関しては、研修期間を二年にして頂ければと思います。

10. 所 感

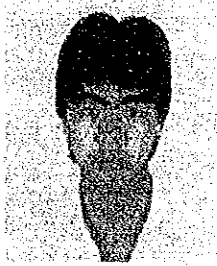
「日本に行ける日はいつかな」夢で終わってしまうのではないかと考えていたのですが、研修生として、日本に来て、それに、大学で学ぶことができたことをとても光栄に思っております。

こちらに来て、いろんな体験をし、今まで、知らなかった新しいことを沢山得ることができ、視野が広がったようにも思います。これも、みんな、国際協力事業団はじめ、研修先の先生方、

関係者のお陰だと、感謝の気持ちでいっぱいです。

国に帰ってからも、日本で学んだことを、もっとマスターして、移住先のためになることを少しでも多くしたいと思っております。

日本で過ごしたこの一年半は一生忘れることはないでしょう。事業団の皆様、そして大学の先生方や職員の皆様には、いろんな面でお世話になりまして、どうもありがとうございました。



大 村 昭 仁

1. 研修機関 (1) 前期 平塚市中央農業協同組合
(2) 後期 同 上
2. 研修期間 平成元年4月～平成2年9月
3. 研修職種 農業機械修理と整備

4. 当初の研修計画

私は日本の農業機械の技術を学ぶ事が一番の目的でした。

5. 研修概要

神奈川県平塚市中央農業協同組合で、1年半も研修をさせていただきました。

この期間の研修内容は次の通りです。

初めは見た事もない機械が多かったので、私の担当者が修理をしてる所を見ながらだんだんと覚えていきました。

農機サービスセンターなので、修理に来てる機械で研修を受けていたので、やたら手を付ける事ができなかったのです。

機械の種類が非常に多かったので一つの機械についてゆっくりと勉強する事がむずかしかったです。でも一通り全部勉強しました。

勉強した機械

トラクタ オーバーホール、オーバーヒット、クラッチ、ディスコ、トランスミッション
ユアツ、バルブ、ピストン etc ...

コーウンキ キャブレタの分解、オーバーホール、オーバーヒット、トランスミッション
チェンケース、バルブすり合わせ etc ...

管 理 機 エンジンの分解とキャブレタの分解

コンバイン 修理と整備

バインダー 修理と整備

田 植 機 修理と整備

乾 燥 機 組み立て

草刈機 組み立てと修理

その他、エンジンポンプ、カオンキ、ウォータカップ etc...

ガソリンエンジンとディーゼルエンジンを同時に勉強できたのでとても良かったです。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

計画としては農業機械専門に勉強をしたかったけれど、機械だけでなく農業について関係のある事も色々と勉強をさせていただいてとても結果ときには良かったです。

田植機で田植もしたり、又その田でコンバインで稲刈りをしました。

牛小屋の酸いかん、電気溶接 etc... もしました。

7. 合同研修会について

合同研修があるって事はとても良い事だと思います。日本についてすぐに先輩達から日本の情報を聞かされ、又自分達が経験したアドバイスも話してくれますからだいぶ助かります。でも一番に良いのは仲間達と会えることです。

8. 本邦での生活状況

私は、初めっから海外移住センターで生活をしてましたので、困った面はとくになかってです。会社でも皆からとても親切にしてもらいましたから、とても良い生活ができました。

ただ一つだけ困りました。ストレスがたまりやすく、そのたまったストレスを好きなように解消することができませんでした。

他には別に問題はありませんです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言および要望事項

皆様出きるだけ友達を作って、又友達になってあげて下さい。たぶん日本に来て初めてどれだけ友達が大切か分かるかと思います。

10. 所 感

長いようで短い1年半が今終わりとなってきます。

私にとってこの1年半の研修はとても良い経験になったと思っています。一生忘れられないことだと思います。

帰国してから、別な事を始めてもこの一年半日本で学んだ事は忘れず、どうにか生かして行きたいと思っています。

最後になりましたが、国際協力事業団の皆様、そしてその他の皆様に感謝し、お礼申し上げます。本当にこの1年半、どうもありがとうございました。



1. 研修機関 (1) 前期 松下電器産業(株)
テレビ製造ノウハウ技術の習得
1989. 5. 16 ~ 1990. 4. 27.
(2) 後期 松下電器産業(株)
ビデオ製造ノウハウ技術の習得
1990. 5. 7 ~ 1990. 9. 21.
2. 研修期間 89年4月~90年9月
3. 研修職種 家電修理
(テレビ/ビデオ製造ノウハウ及び自動挿入機技術の習得)

4. 当初の研修計画

自動挿入機、パナサートRH、JVの機械の操作、トラブルの修理技術の習得を学びとることを計画に入れました。

又、テレビ/ビデオは出来上がるまでには色々なプロセスがあります。それらのプロセスにおける色々な原理ノウハウを学びとることを計画しました。

工程には色々な問題やトラブルなどがありますので、その対策と修理技術も学ぶことを中心にしました。

5. 研修概要

インサートマシン パナサート自動挿入機

* 初めはテレビ事業部でインサートマシンの研修をしました。この機械はテレビにあるたくさんの部品をプリント基盤に自動で挿入しますので、その機械の操作及びメンテナンスを学びました。この機械は色々な種類がありますので、具体的にはパナサートAJ、パナサートAV、パナサートRH、パナサートRHU、マルチサートやパナサートRH6などの操作及びメンテナンスの研修をしました。徹底的にこの機械の理論、ユニット保全、NCプログラム作成、工程生産実習やユニットポイントの調整などを学びました。ビデオ事業部ではパナサートMK、MQ、HDの操作及びメンテナンスを学び、内容はテレビ事業部のと同じです。

テレビ/ビデオ製造技術の習得

* 次はテレビ事業部でテレビの製造ノウハウの技術を学びました。具体的には部品手挿入作業、P板点検作業、ボードテスター作業、シャーシ調整、完成工程の調整と最終点検などの勉強をしました。

又テレビ修理を勉強し、具体的にはシャーシ不良修理ノウハウ、テレビセット修理ノウハウの習得も実習しました。修理内容については、電源回路、音声回路、CRT回路、垂直回路、水平回路、カラー回路などの勉強をしました。

最後にはビデオ製造ノウハウ技術の習得及びビデオ修理技術の勉強をしました。具体的にはビデオ フレーム組み立て、ビデオ電気調整、五感走行調整、ケーシング完成検査などをビデオ組み立てを通じて実習しました。又ビデオ修理技術の勉強をし、具体的には電源回路、カラー回路、音声回路、タイマー回路、Y/C回路、メカシャーン回路、リモコン回路などを勉強しました。

成果

パナサート自動挿入機、テレビ/ビデオ製造ノウハウ及び修理技術の習得を学びまして、初めは分からない事がたくさんありました。この5か月間、機械、テレビ、ビデオの研修をし、いま、機械の操作はすべて出来る様になりました。又テレビ、ビデオは製造でも、修理でも、現場の方達はミスとか問題が発生した後に、直ぐ解析し、また同じような原因の不良が出ないようにしなければいけないと言う事をしり、勉強になりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

日本に来る前の研修計画は、テレビ/ビデオ製造ノウハウ技術の習得及びテレビ/ビデオ修理技術の習得でした。又、パナサート自動挿入機の操作及びメンテナンスの習得などを計画に入れていました。

実際の研修内容は計画通り進めて、だけど仕事時間にはあまり質問できず、残業時間に質問しながら、回りの皆さんに教えて頂いていました。ですから私の目的通りにすべてができたわけはありません。

7. 合同研修会について

今回の合同研修会については報告先、報告方法又研修会の場所も北九州に変わりました。担当者の方々の参加や、19、20回生以外の研修生達もいて、大変気を遣い、慣れている横浜の海外移住センターの方がいいと思いました。報告では担当者の方々に参加頂き、本当によかったと思います。19回生から20回生に、意見、アドバイスなどをする時に、声がなかなか研修生達から出ないので、グループに分かれた方が、意見やアドバイスが自由に出来ると思います。

8. 本邦での生活状況

日本での生活は初めは本当に苦労したことがありますが、今の生活状況は1年半も経ち、大分慣れました。日本語も何とか分かるようになってきて、不自由なことはほとんどなくなりました。会社の寮にお世話になっていますけれど、寮費が高いと思いつながら、この一年半を過ごしてきました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修先で必ず分からない事があり、研修内容や実習方法を変えたい希望があるとか研修に必要な器具などが不足している場合は、遠慮しないで、希望を出した方が研修をスムーズに進める事が出来ると思います。

又、一番大切なのは、季節の変わり目には、特に健康に十分気を付けた方がいいことだと思います。

10. 所 感

帰国後はブラジル松下電器の仕事を続けるので、日本で学んだ事を実際に、生かして、私が身に付けた技術力をブラジルでさらに磨きをかけ、向上させるよう努力していく覚悟です。

松下電器に入社して、2年になりますが、日本へ来る前には、世界で一番、技術進歩している国と聞いていたので是非とも来て勉強したいと思っていました。日本で学んだ先進技術を帰国後、ブラジル松下電器で自分の力で応用し、活用出来るように頑張っていきたいと思います。

私は日本での、テレビ、ビデオ、パナサート自動挿入機の研修を通じて、短期間の間に学びとった数多くの技術を持って、これからブラジルで頑張ります。



早川千恵美エレナ

1. 研修機関 (1) 前期 農事組合法人世羅幸水農園
(2) 後期 " "
2. 研修期間 平成1年4月～2年9月
3. 研修職種 果樹(梨栽培)

4. 当初の研修計画

先進国である日本で農業特に梨、ブドウ栽培技術を習得することと農村での文化、生活など自分の目でたしかめることでした。

5. 研修概要

この一年半の間、いろんな事を学びました。

最初の40日間は横浜海外移住センターで日本語の講習を受け、東京見学などしました。

5月16日から研修先である世羅幸水農園で梨づくりのきそを勉強しました。特に果樹は一年間を通して手入れをしないと良い果実ができないことがわかりました。

一年間の作業をまとめると次の通りです。

10～11月：せん定準備(なわ切り)

12～3月：せん定、誘引

4月：摘蕾、摘花、受粉準備、受粉(ミツバチ、人工受粉)、接木、芽かぎ

5月：芽かぎ、摘果(第一次)

6月：芽かぎ、摘果(第二次)、新梢誘引

7月：摘果(第三次=修正摘)、夏季せん定

8月～10月：収穫、選果、販売

品種は新水、幸水、豊水の順です。

以上のようにいろんなことを実習しました。中でも自分が接木した枝が活着して長く伸びたの

でかんどうしました。

冬の期間はむずかしい梨栽培の本にかなづけをして学習しました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は日本で梨とぶどうの栽培技術を学ぼうと思ってきました。でも梨の方を一年間やってあと半年ぶどうをやるとどっちも半ばになるような気がしたので梨だけにしました。梨づくりは非常にむずかしいので結果的には良かったと思います。特に5～9月までは2年にわたって体験できたので勉強になりました。

7. 合同研修会について

6カ月に一回の楽しい合同研修会をできるなら3日だけではなく7日間にのばしたら本当に皆のストレスがはいしょうすると思います。私は合同研修会があったおかげで研修の方をがんばれたと自分で思っています。

研修先でもいろんな人たちとめぐりあえたけれど、やっぱり同じ国のものどうし話しあうのもたいせつだなとわかりました。

8. 本邦での生活状況

私は幸水農園の組合員(22戸)の一員である寺本家に1年半お世話になりました。

6人家族の中へ1人加わっての生活であり、初めは毎日うまくいくためおたがいに気をつかいながら一つ屋根の下でくらししました。寺本家では私を家族の一員として見てくれました。おかげさまでこの一年半無事すごせることができ寺本さん一家にはほんとうに長い間お世話になりました。心からかんしゃします。又、祖父の故郷北海道でしんせきの人達と会えることができたし、農園で働く人達約200人、梨を買いに来られるお客さん、何千、何万という人達と会話ができました。更に、地区民体いく大会でのおうえん団の一員として、盆おどり大会秋祭り等地いき住民の一人として参加でき、農村の生活と人じょうあふれる社会でいろんなたいけんができ、楽しい思い出いっぱいです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

今後の研修生たちにつたえたい事は先輩たちの言ってくれたように、なくべく日本語を身につけてくること、そしてできれば今の日本のことをすこしでも多くしておくこと、日本の人たちは外国のことをよくしつもんします。できれば自分の国の歴史や気温等学校で学んだことをくる前に目をとおしてきたほうが良いと思います。

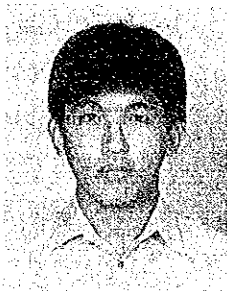
10. 所 感

世羅幸水農園は22戸で協同けいえいによって赤梨三水(新水、幸水、豊水)を約80ha栽培しており、日本では有名なさん地です。そこで1年半農園で働く多くの人達と仕事をしながら勉強にはげみました。小さな手に大きなせん定バサミ、ノコをもって枝を切ったり、誘引したりしました。

初めはわからない事ばかりでつらく泣きたい時もありましたが、皆さんのあたたかいしどうを

いただいて最後までやりぬくことができました。そして自分がせん定したり摘果した果実が大きくそだち収穫できるよるこびというせいさんしゃしか味わえないことも体験を通し、じっかんしました。又農園では婦人部の一員として研修旅行、料理講習、団地研修等に参加させていただき多くのちしきを身につけることができ、私自身大きく成長したことをよろこんでいます。この体験をブラジルの国に生かすことを約そくしたいと思います。

最後にお世話になった農園の皆さん、色々お世話をして下さった海外移住センター、国際協力事業団中国支部の皆さんほんとうにありがとうございました。



梶 寛 希 テ モ テ

1. 研修機関 (1) 前期 } 東芝エンジニアリング(株)
制御システム部 管理制御システム課
(2) 後期 }
2. 研修期間 平成元年4月～平成2年9月
3. 研修職種 コンピュータ (システム作成・開発)

4. 当初の研修計画

テーマ：“コンピュータシステムを理解できる為の知識を得る”

研修内容

★ はっきりした計画は、初めからありませんでしたので、とにかくテーマと関連しているものならやりたいと思っていました。

5. 研修概要

★ 私の研修は、幸い開発向けの会社であった為、1つのコンピュータ・システムが引きあがるまでのあらゆる段階を詳しく知ることができました。

下記にそれぞれの段階にて得た知識(成果)を簡単に示します。

1. 仕様を決める

- ・おそらくこれは、納期内にシステムを完成することに次ぐ、非常にむずかしくて悩まされることである。つまり、プログラマー等とお客様が打ち合わせを何回もくり返して、システムがどんな風に動くのかを決めなければいけない時期である。更に、マシン及び言語等が初めて使用する物でしたら尚めんどろくさくなり、余計な時間を使ってしまうことになる。

2. 基本設計の作成

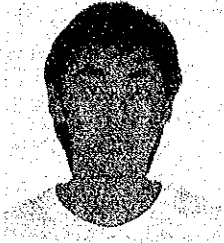
- ・仕様に基づいて作成するものです。仕様書で定義してある通りに作成しなければいけないので、結構神経を使います。この段階でミスをしてしまったら、後々苦労することになる。

3. 言語へコーディングする

- ・基本設計書通りコーディングする。設計書がしっかりしていれば、この段階では楽にできます。

4. システムの統合化
 - ・いままで小さなサブシステムを作成してきたが、すべてをまとめて初めてシステムとして起動する。
5. テスト（デバッグ）
 - ・上記の段階の2～4のいずれか1つに問題があった場合、当然テスト時にそれが表れます。（テストではシステムを実際環境みたいに動かしたりして、“バグ”（問題）が無いか確かめる機会です。もしそれが有った場合、デバッグをしたりしてはいけません。バグの理由は簡単に見つけだすのはいいが、デバッグが大変むずかしいです。
6. システム・インストール
 - ・完成されたシステムをお客様のマシンに起動し始めることを示します。

★ 成果：素人同様な私がかんんなに知識を得ることができるとは思っていませんでした。まだまだ足りないことがあります。この研修をベースにして新しいものを得る為には宝です。
6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して
 - 自分の研修計画があまりよくできていなかった為、実際の研修は想像よりはるかに良く、自分がほしかったことを満たせました。
7. 合同研修会について
 - 年に2回行われるこの合同研修会は、我々研修生にある“安心感”を持たしてくれまして、最高にハッピーにしてくれるイベントだと信じてます。
8. 本邦での生活状況
 - JICAからの生活費はちょうどよく、無駄使いをさせないが、ちょっとした旅行や買い物をゆるしてくれました。その面では不自由無しでした。
 - 友達等は、研修の仲間をはじめ、知り合った人が多く、淋しい思いはあまりしませんでした。
9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項
 - ・生活は不規則が一番ダメ。
 - ・研修でも、私生活上でも、決して無理をしないこと。自分のまわりのリズムや雰囲気等にまどわされず、できるかぎりマイペースを保ち、自分の性格に合う友達をつくるのはグー。
10. 所 感
 - ここ（日本）での生活は生まれてから一番、自分のやる事が直接自分にいきょうを与えた時期だと思う。知能的な面のみではなく。人間的にもきたえられたような気がします。
 - 帰国後、受験して大学に入りたいと思います。恥ずかしながら、ブラジル程未来が不安定である国はそうありません。したがって、自分は、大学に入る以外、今のところ全く考えていません。1つ加えて、日本でえとくした技術を少しでも母国にやくだてたいと思っています。



1. 研修機関 (1) 前期 } 青森県林業試験場
(2) 後期 }
2. 研修期間 平成元年4月～2年9月
3. 研修職種 シイタケ栽培と技術

4. 当初の研修計画

シイタケ栽培：植菌，管理方法，発生方法，収穫の時期。

5. 研修概要

研修内容は計画通りでした。

16ヶ月間の研修を修了し，シイタケの栽培技術を身に付けることが出来，ブラジルでのシイタケ栽培を可能にすることを目的として勉強して来たのが良かったと思います。

ブラジルでシイタケ栽培に失敗した原因を把握することが出来ました。それは，温度と湿度の関係でした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

計画通りで良かったと思います。

計画になかったことも沢山学ぶことが出来ました。

7. 合同研修会について

7月の合同研修会は，少しあわただしくて，疲れました。それに研修生たちが話をする時間が足りなかったと思います。

もう少し遊ぶ時間をへらして，話し合う時間を作ったら良いと思います。

8. 本邦での生活状況

小さな町で住みやすい所です。友達も沢山出来ました。

サッカーをやっていたため，STRESS解消になりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これからシイタケ栽培の技術を学びに来る方には，2年ぐらの期間にした方が良いと思います。研究が1年半，実習が半年。

10. 所 感

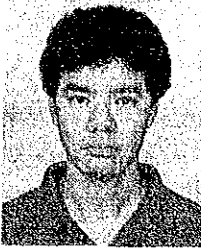
青森県に研修に来て良かったと思います。

気温があまり高いときのご菌糸に良くないのは，知っていましたが，低すぎるのも良くないとは，知らなかった。

そのため，ガラスの温室を使って研究をしました。

帰国後は，日本で学んだことを大事に育てて，花を咲かせたいと思います。

ブラジルで頑張ります。



1. 研修機関 (1) 前期 三菱重工長崎造船所
(2) 後期 同上
2. 研修期間 平成元年4月～2年9月
3. 研修職種 熱工学(ボイラ設計技術)

4. 当初の研修計画

- ・製紙工場向ソーダ回収ボイラ設計全般
- ・工業向 自家発電用一般ボイラ設計
- ・ボイラの燃焼調整
- ・公害対策
- ・ボイラの管理

5. 研修概要

平成元年5月から平成2年9月までの約1年半、三菱重工長崎造船所にてボイラ設計技術の研修を受けました。当所での配属先は火力プラント設計部 陸用ボイラ設計二課であり、主に工業向自家発電用ボイラの設計を担当しているところです。

最初は新入社員と共に外部及び課の導入教育を受け、組織の構成や業務について理解をすることができました。その後、業務上一般の社員と同等の扱いで、OJT (On the Job Training)にてオーダ関係の仕事に取り組みました。作業としては、ボイラの仕様項目に基づき、標準をベースに燃焼計算、ボイラ効率計算、蒸気バランスを含む熱計算、ボイラ水循環計算、蒸気過熱器メタルセレクション等を実施することでした。これらは殆ど電算化されており、大型コンピューターの端末機を扱いながら作業を進めることが大半でした。全体的な業務を把握するにつれ、次第に詳細設計へと移り、厳密な検討を行うようになりました。

研修期間中、三菱重工の他事業所、そして当所が製作中のボイラ建設現場で現地実習を行いました。事業所においては工場見学を行い、製作ラインを観察する等現場体験ができました。広島製作所ではボイラのある補機について受講し、横浜製作所では設計業務や製品の紹介等がありました。客先工場においてはボイラの燃焼調整や計測等運転に関係するものでした。作業としては運転データの計測やデータ整理等の助勢でしたがオペレーションの面ではボイラ起動から最大負荷までのボイラ試運転要領を理解し、試験報告書の作成方法も把握できました。それにボイラ本体の構造や機器の配置を観察し、図面上分かりにくい場所が明瞭になりました。現場では安全管理が大変厳しく、設計技術以外の体験ができ、改めて現地実習が重要、そして有意義であることが分かりました。

平成2年5月中旬、そして9月上旬に東京本社の原動機技術統括室で各々約2週間に亘り、輸出用引合オーダーのソーダ回収ボイラ基本計画及び見積作業を行いました。もし受注すれば、黒

液（パルプ製造排液）固形物処理容量世界最大というボイラで緊張感があふれるものでしたが、最先端の技術を注ぎ込んだ設計でしたので、問題ないものと感じられました。研修修了間近にこんな大規模なプロジェクトに参加させていただいて大変幸運に思っております。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修は殆ど計画どおりに行われましたが、ある項目については必要以上に時間を取られてしまい、又、他の項目については十分な時間が取れなかったという事がありました。これはやはり研修先が企業であり、製品の納期及び顧客への書類提出期限等すべてタイムリーな作業を行う必要があるためだと感じられます。しかし全体として目的としていた回収ボイラ的设计に関しては十分な指導をいただくことができました。特に現地で実習をさせていただいたのが何よりも有意義でした。

7. 合同研修会について

6ヶ月毎に行われる合同研修会は研修生にとって非常に大切な事です。多分それが唯一の楽しみと言っても過言ではないでしょう。外国人が日本社会に溶け込むのはいくら日系人でも、いくら言葉が話せても容易ではないことです。生まれ育った所とは環境が全然違いますし、カルチャーショックは多少あるものです。合同研修会ではこういう問題点をあげ、意見を交換し、研修や生活における問題を解決できるただ一つの重要な機会です。これからもこの研修会は出来る限り継続していただくことをお願い申し上げます。

8. 本邦での生活状況

昨年5月に長崎へ移動し、三菱重工の独身寮に入居しましたが、時間や場所の制限された寮生活には馴染めず、又寮の施設が古いわりには宿泊費が高かったため、10月には会社に近い民間アパートへ移りました。単身生活は初めてでしたが、必要なものは買いそろえ、一応生活ができるようになりました。炊事や掃除、洗濯等家事に追われることもありましたが、それも良い経験になりました。

しかし何といっても借家ながら自分の家が持て、マイホームがあるということを実感するようになってから気持ちが落ち着き、自分に合った生活ができたのは大変嬉しいことでした。住居の移動に際し、自分の要望が叶えられたことに厚く感謝をしております。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

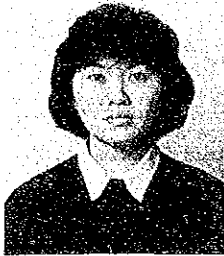
- 1) 各国で研修生を募集するにあたって事前に子弟技術研修制度に関する説明会があれば不明点を残さずコースを選択出来ると思います。それに上級、一般の試験及び面接は別々に行うべきと考えます。
- 2) 海外移住センターでの日本語講習は大変有意義でしたが、一般的な語学以外に技術文書の書き方、まとめ方について説明があればもう少し充実していたのではないかと考えます。

10. 所 感

長年の念願が叶い、平成元年4月に第19回子弟技術研修生として来日しました。約一年半にわ

たり、この経済大国である日本の一流企業で世界先端の技術を学習させていただいたことは技術者としてこれほど幸運なことではありませんでした。ボイラ設計技術は非常に範囲が広く、さまざまな知識を持つ必要があります。私は、そのほんの一部を修得したことになるのかもしれませんが、これからブラジルへ帰国し、ブラジルと日本の異なる条件を踏まえ、そしてそれを課題とし、設計及び研究を進めて行く事を目的としています。いつかその成果が出た時、国の発展に貢献出来ていれば幸いです。

最後に国際協力事業団の皆様を初め、三菱重工の方々に厚き御指導を頂き、心からお礼申し上げます。



佐々木ユリセシリア

1. 研修機関 (1) 前期 県立広島病院, 広島県廿日市保健所
(2) 後期 広島市・安佐南保健所・東保健所
2. 研修期間 平成元年4月～2年9月
3. 研修職種 栄養学及び食事療法と栄養指導

4. 当初の研修計画

日本は世界1の長寿国であり、また栄養バランスのとれた、理想的な食生活を営んでいる国であるため、今世界から注目されています。行きとどいた教育、健康管理システムと予防対策は国民の健康状態に直接関わっています。ブラジルも将来、日本と同じように予防医学に重点をおき、まず健康状態から国民の生活レベルをアップさせる必要があります。そのため私は、日本での予防を中心とした栄養学の研修を希望しました。また病院での研修は、進んだ医学に対しての臨床栄養のあり方を勉強することが主な目的でした。

5. 研修概要

1. 県立広島病院

- 給食管理
- 病院における食事療法, 栄養指導, 食生活調査。
- 調理場の細菌検査

病院内の研修だけでなく、栄養業務に直接関係を持つ保健所や衛生研究所などで研修を行うことによって日本の食生活、衛生管理、栄養改善システムなどを幅広く知ることができました。総合病院であっても、日本とブラジルの栄養士の業務基準は大きく違いますので、とまどったり迷ったりしましたが、研修計画を改める意味では有意義な研修でした。

2. 広島県廿日市保健所

- 保健所における栄養改善事業。(運動普及推進講座, 健康セミナー, 健康祭り, 食生活

推進員研修会，在宅栄養士研修会，健康づくり研修会，栄養教室）。

一 国民栄養調査（説明会，調査世帯訪問，身体状況調査，集計）

廿日市保健所では，国民栄養調査について詳しく勉強するため，スタッフの一員として参加させていただきました。国を通しての食生活調査は，まだブラジルでは行なわれていないので参考にしたと思います。

3. 広島市安佐南保健所，東保健所

一 乳児期から老年期までの生涯を通しての栄養改善業務に参加。

地域住民
指導

○ 保健栄養指導

- 4カ月健診
- 9カ月健診
- 1才半健診
- 3才児健診
- 離乳食教室
- 幼児食教室
- 妊婦教室

○ 健康増進

- 健康づくりリーダー養成講座
- 食生活推進員養成
- 健康づくり大会，シンポジウム
- 健康まつり
- 地区住民のための栄養教室
- 高齢者栄養教室

○ 病態栄養指導

- 基本健診に伴う栄養指導
- 高血圧教室
- 肥満教室
- 高脂血症教室
- 糖尿病教室
- 貧血教室

- 児童福祉施設の給食指導
- 学校の給食指導

- | | | |
|------------|---|---|
| 給食施設
指導 | } | <ul style="list-style-type: none"> - 事業所, 病院, 社会福祉施設その他の給食指導 - 給食従事者講習会の開催 |
| 栄養調査 | } | <ul style="list-style-type: none"> - 国民栄養調査 - 市民食生活実態調査 - 市民のための食生活プランの策定 - 離乳食の集団指導の担当 - 幼児食講習会の担当 - 健診結果説明会にて個別栄養指導 - コンピューターによる食事診断 - 学校給食, および小学校における栄養教室見学 - 乳児とねたきり老人への家庭訪問を見学 |

安佐南保健所, 東保健所では, 乳幼児を中心に集団栄養指導, 講演, 講習会などを行いました。課題と目的を決め, 新しいデータを集めたり, 原稿, 資料, 教材などを作成し, 栄養指導を実践したことは, 技術の面で良い成果をあげることができました。

また保健所の中であっても, 予防課とは別の係が担当している乳児とねたきり老人への家庭訪問や食品工場視察への参加を通じて保健所全体の動きをとらえることができました。

広島県と広島市の2つの保健所で研修を行うことによって, 仕組や重点のおき方の違いが理解できました。

6. 当初研修計画と実際の研修内容とを比較して

日本とブラジルでは病院栄養士の業務基準の差が大きいため, 計画した臨床栄養の研修は不可能でした。その反面, 計画には入っていない, 新しい栄養学の分野を知ることができ, また研修の主な目的である健康増進に専念することができました。また, 集団栄養指導など, 実践をとおしての研修は, 目的以上の成果でした。

7. 合同研修会について

合同研修会は, 研修生全員が集まる唯一の機会なので, 時間をできるだけ有効に使う必要があります。たとえば, 報告会を専門的ディスカッション, そして生活上の問題点の話し合いに分けると, もっとまとまった発表ができます。また, 1989年9月に行なわれた合同研修会の自主研修会では, 研修生の新聞, 「CORREIO LATINO」が作り出されたように, 良い成果があげられていますので, これからも続けていただきたいと思います。

8. 本邦での生活状況

広島市の中心部のアパートで一入暮らしをしましたが, 初め, 想像していたほど淋しくも大変で

もありませんでした。広島では、他の留学生との交流もあり、また市内は文化やレジャーの面でも設備が整った町なので、ほんとうに暮しやすく、親しみを感じました。そして、日本に来て初めて挑戦した生け花、ボーリング、アイススケート、スキー、テニスなどは、上手にはなりませんが、たくさんの人との出会いがあり、とても楽しかったです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

— ブラジル、サンパウロ支部では、子弟研修制度に関する情報は、ほとんど何も得られなかったため、日本に来るまでみんなとても不安な気持ちでした。これまでに提出された報告書、アンケート調査、などは研修希望者に対してもっとオープンであってほしいと思います。

— 祖国で専門分野を活かしているOBの方の再研修、あるいは視察などの方法で日本へ来る可能性について考えていただきたいと思います。

10. 所 感

研修目的であった日本の予防システムと衛生教育について、深く学ぶことができました。その中で、最も詳しく勉強させていただいた栄養教室などは参加して下さる方たちにとても喜ばれていますが、今の方法では、目標の達成状況が測定できない、というのが問題点です。でも日本の保健所は、ブラジルと違って、まず、健康教室開催のための予算があります。それから市民の健康や正しい食生活についての関心、まだかかっていない病気の予防までを考えられる経済的余裕、一定した食生活、などという面では、とても指導がしやすいと感じました。

ブラジルに帰りましたら、できれば保健所などで栄養失調予防対策や成人病予防対策などを進めていきたいと思っています。

最後になりましたが、この研修制度を提供して下さったJICAの皆様、直接指導して下さいました栄養士の方々、そしていろいろ面で協力していただいた方に心から感謝とお礼を申し上げます。



豊田陽子ソーニャ

1. 研修機関 (1) 前期 神奈川県立母子保健センター
(2) 後期 神奈川県立母子保健センター
2. 研修期間 平成元年4月～2年9月
3. 研修職種 助産婦

4. 当初の研修計画

私の夢は、幼い頃から、看護婦になり、それから助産婦を中心としていろいろな分野で活動することです。両親に聞かされる日本、そして戦後の工業、経済や医療の発達は常に、ニュースや新聞で情報としてえていました。ブラジルから見ると先進国の日本では、助産婦としての新しい技術や知識などを得ることと、日本の医療システムなどをはば広く理解し、文化などにも目を向

け、しやを広げようと思っていました。

5. 研修概要

神奈川県立母子保健センターでは、助産婦業務を中心として研修が開始されてから、各セッション（外来、分娩室、産婦室、新生児室）をまわり、院内の全体の流れを把握しながら、概要をつかむことにしました。

① 外来では、

- ・妊娠中の定期検診と保健指導
- ・産後健診と保健指導
- ・退院指導
 - （育児について
 - 産後生活について
- ・母乳外来
- ・助産婦外来
- ・沐浴指導
- ・育児健診（1ヶ月、6ヶ月、11ヶ月）
- ・産前教育
- ・夫協力分娩の集い
- ・家族計画外来
- ・入院時の対応

② 分娩室では

- ・お産の経過看護
- ・分娩直後の看護
- ・分娩室の看護
- ・出生児直後の看護

③ 産婦室では、

- ・分娩当日の看護
- ・産後の乳房管理
- ・産婦室の母児同室性の看護
- ・母乳栄養を確立するケア

④ 新生児室では、

- ・新生児室の入室後看護
- ・転院時の取り扱い
- ・正常新生児の看護

5月から8月にかけての成果として、このような計画はとても理解しやすく、早く病院の流れを一貫して学ぶことができました。

それから受け持ちケース（初産、経産）を通して妊娠中、出産、育児を継続的に業務に入りながら、責任を持ち、一つ一つの内容を確認しながら、未熟である部分は再度やり直しをすることにし、あるいは、もっと知りたい事は積極的に調べることにしました。

その他お産の考え方は施設によって違うので、いろいろなお産に対するあり方を学ぶことにしました。

平成1年10月（警友病院では麻酔分娩）

平成1年11月（のぞみ助産院では、地域での自然分娩）

6. 当初研修計画と実際の研修内容を比較して

私が予想していた以上に研修をスムーズに進めることができました。満足しています。助産婦以外に広はん圃で日本における母子保健システムや医療システムを学ぶことができ、そして、日

本の老人問題や、かく家族の問題を理解することができました。

この様な一年半の研修を通して、ブラジルのいろいろな問題などが見えてくるようになり、大きな課題に直面していることに気付きました。

7. 合同研修会について

合同研修会は、研修生全員が集まっている色々な体験や問題点などに関する情報や意見交換ができる大切な時間だと思いました。先輩から後輩への研修や生活についてのアドバイスなども含まれているので、本当に状況の分からない初めての研修生にはとても心強いと思いました。又、その中に研修旅行も含まれていて、友情を深めることができました。

今後是非続けて頂きたいと思いました。できれば横浜のセンターで9月にだいたい1週間位の日程が望ましいと思いました。

8. 本邦での生活状況

初めて国を離れる経験なのでとても心ぼそかったけれど、私は、移住センターに残り、同期生7人と、いろんなコース、いろんな国々やいろんな年齢の研修生と、集団生活を味わうことができたのは大変良い勉強になりました。一人ぼっちになることはなく、いつも相談にのって下さったり、悩みを聞いて下さる方々がいらっしやるので、淋しい思いはあまりなく、いろんな面で不自由せず無事生活することができました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

皆それぞれ、日系人といっても、日本と違った文化や生活の中から来られるので、いろいろな面でギャップを感じられると思いますが、その人、それぞれのペースで日本社会に慣れると、余裕が出て来ると思います。その時は、少しずつ日本の良さが理解できるようになりスムーズに進むことができると思います。

一年半ですから、いろんな体験をつんで、何事でも自分の勉強になることを考えれば、どんな研修でも良い結果につながると思います。あせらずに、健康と精神面にも気を付けることですネ。

10. 所 感

この一年半の期間、本当に思っていた以上の研修ができました。これから助産婦をめざす私にとって、体で、はば広い内容を学ぶことができ、私の道を方向づけて下さったように思えます。新しい技術や知識、そして、いろんな物に対する見方や考え方をいろんな視点で学ぶことが出来たのは、これから一生を通して仕事だけではなく生活にかかる大切なことでした。

今後、帰国して、来年の三月から助産婦コースにもどり、免許を得ることを一番の目標として、同級生をはじめ、多くの人達に日本で学んだことを伝え、生かして行きたいと思っています。

最後になりましたが、国際協力事業団の皆様を初め、その他の関係者、そして研修生を受け入れて下さった神奈川県立母子保健センターには、大変お世話になり、感謝の気持で一ぱいです。本当にありがとうございます。



1. 研修機関 (1) 前期 熊本県畳工業組合

1. 中村産業
2. 太陽工業株式会社
3. 青加商店

(2) 後期 熊本県畳工業組合

1. 中村産業
2. マルイチ株式会社
3. 太陽工業株式会社
4. 広島畳店

2. 研修期間 平成元年4月～平成2年9月

3. 研修職種 畳製造

4. 当初の研修計画

家業が畳製造であるため、高校時代からその仕事に深い興味を持っていた。

高校を卒業し、畳製造へ移り、2年ほどその仕事をやっていた。畳と言えば同業者がどこにでもいないため、お互いに話し合うこともできず、その仕事を知っていて頼れる人と言えば父だけ。でも父は30年前ブラジルへ移住して来た。あれからの日本は大分変っていると思った。「日本で現在造られている畳はどんなんだろうか。畳と言えばこれでいいのだろうか？」私自身も仕事を受けながら不安で一杯でした。畳という基本的な知識がなかった私にとって日本へその技術を学びに来ることが大きな夢であった。

日本の畳製造最新技術を学び、将来はブラジルでスポーツの柔道畳と家庭の座敷用畳をもっと普及させることが私の目的であった。

5. 研修概要

(1) 柔道畳の造作

カマチの切り落とし、表の張り方、カマチの縫い留め、返しの切り落とし、返しワラの縫い留め、返しワラの糸締め、角削り、シートの張り方、角作り、カマチの縫い留め、返しの縫い留め、返しの糸締め。

(2) 座敷用畳の造作

カマチの切り落とし、表の張り方、表の切り落とし、平刺し（縁付け）の造作、返しの切り落とし、スミ造り、返しワラの縫い留め、返しワラの糸締め、カマチの縫い留め。

(3) 寸法取り

1 - 割り本法

2 - 四一本法（三四五本法）

3-十字本法

柔道畳と座敷用畳の造作そして寸法取り。この三つを中心として研修を行った。
その他畳に関するいろんなことも習うことが出来た。

1-ワラ床の造作

2-スタイロー床の造作

3-リバーシブル畳

4-野郎付け畳

5-合気道用の野郎付け畳

6-八重畳

7-製畳機の修理

8-床上敷き

9-二畳台

畳製造について幅広く学ぶことが出来、大変有意義だったと思っている。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

ブラジルでは個人の道場やクラブ、警察学校など柔道畳の供給の方が多いためその製造を日本
でおもに勉強するのが私の一番の計画だった。

実際の研修が始まると日本では柔道畳の供給が少なく座敷用畳がほとんどだった。

柔道畳を習うのなら、その基本、座敷用畳の製造から学ぶ必要があるのがわかった。

座敷用畳から始まり、柔道畳や野郎付け、畳床の製造についても勉強することが出来た。

技術は同じとしても材料の違いが多少あるためいろいろと研究し、向こうではむこうなりに工
夫する必要があると思う。

今この研修が終りに近づこうとしている。

家業を手伝っていたころの不安もなくなり、学びたいことを自分で計画し、積極的に行動した
ため、祖国へ帰ってからいろんな仕事を受ける自信を持つことが出来た。

7. 合同研修会について

私達が日本にいる間の一番の楽しみだと思う。

両親から離れ、海外で生活をしている私達にとっては友達の一つのファミリーみたいな感じ
です。先輩が後輩を迎える時の合同研修会が一番大切で絶対にかかせない行事だと思
う。

先輩達には後輩を迎えることは大きな喜びでもあるし、元の先輩達から、日本に着いた時、学
んだことをみんなに伝えようという気持ちで一杯です。

後輩達にとってはそういう先輩達が一緒にいるということは安心の一つでもあるし、また大き
な力になると思う。

海外移住センターで行った合同研修会は私の望み通りだった。

今年の7月北九州で行った合同研修会については、期間としてはすごく短かったと思う。合

同研修会と言えば平均して6ヶ月に一回です。期間としてはせめて一週間は必要だと思う。

同じ仲間の人達だと日語講習で得た親しみを持ち、いろんな問題や悩みを気軽にお互いに話し合うことが出来、意見交換して助け合うことが出来る。

北九州ではみんなが挨拶するために集った気がする。20回生の中では初めて会った人もいたのに、ゆっくり話すことも出来ず、新しい環境に慣れないうちにみんなと別れを告げたのです。

沢山話して、精一杯楽しむこと。後期の研修を続けるにはだれにでもそういう精神的なバランスが必要だと思う。

8. 本邦での生活状況

研修の方は月～土曜日8:00～17:30だった。住まいは六畳一間のアパート、食事は自炊や弁当を買ったり、外食したりいろいろでした。何時も似た物を口にしてしまうと飽きるので、体調を崩さないよういつもかえていた。

お陰様で沢山の友達が出来、寂しい時がないようにいつも力になってくれた。

青年海外協力隊や県の国際協力交流キャンプ熊本国際交流クラブの活動にも参加していた。このクラブのお陰で国際的な考えかたを持つことが出来、少しは大人になった気分です。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

まず祖国を出発する前にいろんなことについて簡単な説明会があったら良いと思う。そしてもっと先輩達といろんな日本での経験を話し合うことも大事だと思う。

日本に来てからの合同研修会の時各担当者と話し合い、研修先のいろんな情報も聞けば研修生達の不安も少しは減ると思う。

10. 所 感

日本に来て私の世界が一步広がったに違いないと思う。

嬉しい事や悲しいことさまざまでした。人生に対するいろんな思想に出会えて大変有意義だと思っている。

そして掛け替えのない沢山の友達が出来たことが一番の宝として国へ持って帰ります。

父親の故郷を訪れることが出来たこと。ブラジルでいろいろ聞いていた日本を実際見て、肌で感じる事が出来たこと。

畳の研修だけでなくいろんな社会勉強、人と人の付き合い、将来役立つ掛け替えのない沢山の経験を積み重ねることが出来、大変有意義だったと思っている。

技術面では沢山学びましたが、ブラジルに帰ってからはまだ長い道が待っていると思う。まだ会社経営や購入、販売など。この一つ一つの骨を身に付けてこそ私の将来の道が開かれると信じている。

この研修を無事終えることが出来、お世話になった方々、国際協力事業団及び熊本出張所、熊本県畳工業組合及びお世話になった各会社。また私のファミリーみたいな役をして下さった熊本国際交流クラブのみなさん、心からお礼申し上げます。



角本忠義ネルソン

1. 研修機関 (1) 前期 (有)高木ナーセリー
(2) 後期 (有)高木ナーセリー
2. 研修期間 1989年4月～1990年9月
3. 研修職種 洋蘭栽培

4. 当初の研修計画

自分の第一希望はラン栽培でした。日本に来る前は、自分が思っている希望を実現できるかどうか不安な気持ちでした。そしてこの1年半を通して、自分が思ったより以上のものを学び知ることができました。

この1年半の間に学んだことは技術的なものだけではなく、日本の経営、経済、文化、習慣、そして私達に大切な日本語、会話だけではなく漢字の読み書きも出来るようになりました。

5. 研修概要

最初の実習は温室内で作業を行いました。そして主な仕事はカトレア、ファレノプシス、シンビジウムの植替、鉢上げ、水かけ、温室の管理、とにかくすべての農作業が出来ました。

また、苔まき室ではフラスコに植わっている苗を出し、それを水苔に巻く作業が出来ました。

最終の実習は培養室で行いました。主な作業は無菌室で(クリンベンチ)、シンビジウム、ファレノプシスの増殖、移植を行い、また、準備室とフラスコ室で若干作業を行い、これ以外はユリ、アリウムの球根掘り、小田急のラン展手伝い etc.

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

自分が一番勉強したかったことはランのなかま、シンビジウムでした。

でも、高木ナーセリーでは、ほとんどの商売出来るランの種類がそろっていて、ランの知識を学び知ることが出来ました。

7. 合同研修会について

8. 本邦での生活状況

この1年半の間千葉県高木ナーセリーという会社で研修しました。たくさんの方からこられた研修生と出会うことが出来ました。

それぞれの意見、考え方、習慣は多少違いましたが問題はありませんでした。

食べ物にも全く問題無し、そして農家の方、都会の方、つまり日本人の生活が体験でき、いろいろなことを身につけ、学ぶことが出来ました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

我々は農業子弟者ですから本の上よりやっぱり農家の者と一緒に作業できるのが一番大切だと思います。実際にやると身につけ、学ぶことが多いでしょう。

10. 所 感

これから、日本で学んだ事、技術、情報、文化、習慣等を、ブラジル農業発展（花卉園芸）のために伝えたいと思っています。

とくに洋蘭は世界中でつかわれている花ですから、ブラジルもこれからもっとこの世界に参加しなければいけないと思っています。

そして、帰国しても、日本で折角つくった友達と、色々な面でこのコミュニケーションをいかしていきたいと思っています。



須田 健示 カロス

1. 研修機関 (1) 前期 神奈川県藤沢市 井上和弘様
(2) 後期 千葉県印旛郡八街町 藤代 肇様
2. 研修期間 1989年4月～1990年9月
3. 研修職種 野菜（トマト）・果樹（梨）

4. 当初の研修計画

私は日本の農業、経営、家族を見たいと思って日本へ来ました。その他、けいけん、ブラジルとまったく違う国でのくらし、ぎじゅつ、を学びたいと思っていました。お父さん、お母さんの生まれた国を少しでも知りたいと思いました。

トマト、梨のさいばいを学びたいと思って日本へ来ました。

5. 研修概要

研修の前期は、藤沢市の直売をしている野菜農家へ行きました。直売をやっていたのでいろんなやさいを作っていました。作っていた野菜は、トマト、きゅうり、大根、かぶ、ゴボウ、白菜、キャベツ、ブロッコリー、隠元、枝豆、小松菜、ほうれんそう、葱、玉葱、人参、茄子、ピーマン、オクラ、レタス、ミニトマト、春菊、しょうが、里芋、甘藷、馬鈴薯、と水田でした。実習としては野菜の苗作り、ていしょく、芽かき、草とり、収穫、をしました。後、とってきたものはぜんぶ直売店でうっていましたので、ふくろづめもやりました。大根、かぶ、人参、甘藷、しょうがを洗う仕事も行ないました。週二回店ばんもやっていました。

研修後期は千葉県の藤代梨園にお世話になりました。

梨農家では梨だけ作っていて、草とり、てっか、虫よけのあみはり、風よけのえだかり、梨の収穫、選別、箱づめ、販売と倉庫のそうじをしました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

研修はきぼうどおり、じゅんちょうに行いました。計画以上、直売けいけんもできてとてもよかったと思います。ブラジルよりだいぶすすんでいる国だと思ってきました。でも作物によって

5. 研修概要

千葉県で1年半おなじ農家で研修をしました。

じゅうぎょういんが私をふくめて4人でした。

採卵養鶏の仕事は毎日同じことでした。

- ・卵をとる
- ・えさならし
- ・鶏のデータをとる
- ・鶏の体重をはかる
- ・ワクチン
- ・鶏の移動
- ・ふんしより
- ・たいひ作り
- ・ヒナのデビュー
- ・オゾン水を鶏にのませてテストをしました。
- ・ミネラルの石を水に入れて鶏にのませていました。

おもな研修にさんかすることができ、思いでにのこったことも、勉強になったこともたくさんありました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

採卵養鶏の中では、えさならしはひじょうにだいじだと思いました。なぜかといえば、えさのりょうがへいきんでなければ、鶏にえいきょうがでできます。私はただえさをやって、卵をうませるとかんがえていました。鶏のかんりはとてもむずかしかったです、それでもなれてからはさんこうになりました。日本ではえさはじどうてきに、やっていました。ブラジルではまだ人の力でやっていました。たいひ作りもおぼえました。せいひんとしてはとてもいいひりょうを作っていました。ひょうばんがとてもよかったです。日本はなまけいふんは、あまりうれませんでした。オゾン水を鶏にのませてテストをおこなったけっか、卵のきかくがいがすくなくなりました。ミネラルの石を水に入れて鶏にのませて、いいけっかができました。とてもいいせいひんができています。ひょうばんもとてもいいです、当初の研修計画と実際の研修内容と比較して、たくさんプラスになることができました。

7. 合同研修会について (㈱国際農業者交流協会主催)

夏の研修会には、まだころぼそいところもありましたが、とてもたのしかったです。

春の研修会にはまたかわったふんいきで、研修生全員がところをあわせて、がんばって静岡県立農村短期大学校にお世話になり、とてもさんこうになりました。合同研修会はとてもたのしかったです。

8. 本邦での生活状況

日本での1年半はすべてよかったです。

私は小倉さんのかぞくと、いっしょに生活をしました。とてもいいかぞくで、かんしゃしています。私のことをよくめんどうをみてくれました。

休みの日はともだちと、あそびにでかけたり、スポーツをやったりしました。たまにはつりにいきました。

きんじょの皆さんもよくしてくれました。

しごとの中では、たまには、じゅうぎょういんとの、いいあらそいもありました。いろんなつきあいできて、いいさんこうになりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修生たちがあつまって、はなしあうことが一番だいじだと思います。みんなげんきで、がんばっているのか、みんなどんなことをしているのか、もんだいがあるのか、もしあれば全員ではなしあってどうすればいいのか、それぞれのけいけんからまとめたらいと思います。

私の日本ごがじゅうぶんではなかったため、研修中で困った時がありました。ですから、こうはいたちの皆さん、しっかり勉強してきてほしいと思います。

10. 所 感

私は日本へ研修にきましてとてもうれしいです。

日本は農家のかたがあそばずに、がんばってはたらくから、のうぎょうや、ちくさん、ようけいなどがどんどん進んでいます。

日本に実習にきまして、のうぎょうのせつびが進んでいるので、おどろきました。私はげんざいブラジルでようけいをやっているの、日本へあたらしい、ぎじゅつを勉強にきました。ブラジルとくらべると、まったくちがいます。

はじめは、なれるまでにひにちが、かかりました。よくはんだんしながら、あたらしいぎじゅつなどをべんきょうして、いろんなテストをしました。日本ではせいこうしましたが、ブラジルでいかせるように、はんだんしながら、べんきょうしてがっばっていきたいと思っています。

この1年半の中でブラジルで、いかせることがあります。はんだんしながら、とり入れてゆきたいと思っています。

せかいてきに一ばんだいじなことは、情報と交流だと思っています。

この1年半いろいろとたくさんの人が、おうえんしてくれ、あたたかいきもちで、むかえてくまえて、まことにかんしゃしています。ほんとうにどうもありがとうございます。



1. 研修機関 (1) 前期 静岡県小笠郡大東町 渡辺守夫様
静岡県駿東郡長泉町 長田静男様
(2) 後期 静岡県賀茂郡東伊豆町 山田弘志様
2. 研修期間 平成1年4月～平成2年9月
3. 研修職種

蔬 菜	{	ハウス栽培 メロン, トマト
		ハウス栽培 花のはるもの (くさばな)
		ハウス栽培 カーネーション

4. 当初の研修計画

私は、ブラジルでは現在、ローデで野菜の栽培をしています。私が日本へ勉強にくるもくてきは、どのように日本の農業栽培がすすんでいるか、又、社会人生経験を積み、すこしでもじぶんもおとなになることでした。

5. 研修概要

この1年半のあいだ、静岡県で3かい農家が変わりました。

- a) 静岡県大東町でハウスメロン、トマト、メロンの植えつけ、さしき、結わき、こうはい、しゅうかく。

メロンは、たねをまいてから、2週間たってからさしきをします。さしたのをうえてから、だいたい1カ月たってから、ハウスへ定植して、花がさき、こうはいをします。花がさいてから、50日たってからしゅうかくします。

- b) 花、鉢物 (くさばな)

鉢物 a) シクラメン、インパチェンス、カラシコエ、スイートピー、きく、パンジ、ペゴニアなど。

花、鉢物は一しょう、はちでそだつのですから、土はいい土をつくるのがだいじです。又、かんすいじきによって、つぎからつぎにいろんなたねをまいて、わるいさしき、しゅうかくのじきにはちよくせつ市場へ、こじんでもっていきました。

- c) カーネーション

カーネーション、しゅうかく、花を80cmにまきます。20ぼんにたばねます。灌水は二週間に一かい、土の消毒、なんかいも、おんなじところへ植えるといろんなびょうきになるので、いろいろじょうきょうをかんがえて、げんざい蒸気消毒しています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は、日本でいろんなところへかわって、だいぶ自分がきぼうしたこと、手で作り、いろんな仕事をして目でたしかめる事が出来、いろんな勉強になり、この研修にきて大変うれしく思い

ます。

7. 合同研修会について

8. 本邦での生活状況

私は、日本の生活にはしぜんになれました。もちろん悲しい事やつらい事がありましたけれど、又、1年半の間で3かいの農かへかわって、又、それぞれちがった生活にめぐまれ、又、いろんなスポーツやったり、たっきゅう、じゅうどうなどし、又山にのぼったり、いろんな会合にもさんかさせてもらって、とってもいい思い出になりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

まずは、私は、あんまり日本語がわからなかったので、くる前に日本語を勉強する事、日本語がわかれば研修の中でいろいろくろうもしないと思います。又、自分がまなびたいことはできるだけ、自分のものにしてもらいたい。又、できるだけ友達とコミュニケーションをもつ事、おたがいにたすけあう事。

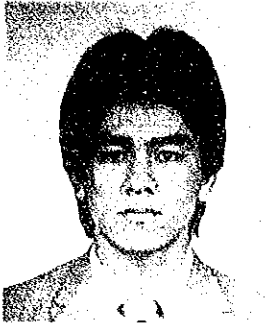
10. 所 感

私は、ブラジルでは野菜栽培をしています。日本ではいろんなこと見て、自分で仕事をして、いろいろと勉強になりました。帰国していままでのけいけんをいかすつもりです。どれほどできるかわからないですけども、がんばりたいと思います。

日本の皆さん、いろいろと大変お世話になりました、どうもありがとうございます。

又、日本の生活とブラジルの生活をくらべる事が出来て、又日本から自分の国を見られて今まであまり気づかなかったようなことやわるい事などがわかるようになった気がします。この一年半の間、ほんとうにアツというまにすぎたかんじがします。農業にかんして、せまいところでそれなりにどりよくがあり、又狭いところでいねいな仕事をして、いい品物をつくる事をみてびっくりしました。

いろんな出会い、ふれあい、かなしい事や楽しい事を自分でたいけんできてほんとうに心からかんしゃしています。皆さんのおかげです。ほんとうにこの一年半の間、国際協力事業団の皆様、又、国際農業者交流協会の皆様、又、静岡県国際農友会の皆様や、又うけいれ農家の皆様ながい間大変お世話になりました。心からかんしゃしています。どうもありがとうございます。



1. 研修機関 (1) 前期 山梨県東八代郡八代町
根津勝利様⇒ぶどう
山梨県中巨摩郡田富町
田中 久様⇒トマト
(2) 後期 愛知県豊明市
横山賢一様⇒マスクメロン
2. 研修期間 1989年4月～1990年9月
3. 研修職種 果樹

4. 当初の研修計画

りょう親の生まれた土地を知る事。

日本の農業技術を学ぶ事とそれから日本の農業を通じて自分をきたえる事が目的でした。

5. 研修概要

日本に来てから一年半の間に三人の農家でそれぞれぶどう、ハウストマトとハウスメロンの研修をしました。さいしょは農家に入っていろいろなさぎょうをしながら、いやな事も有りましたが、色々な農家を見学させていただいたり、試験場の視察などとても勉強になってよかったです。

何が一番ためになったのかと言うと、やはり色々な苦ろうもたえて一しょうけんめいがんばってきて、だれでも一しょうけんめいにやればできるんだなあ、自分に自信がもてた事です。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

ブラジルにいる時にきいていた農業は、ほとんどがコンピューターとかきかいをつかった作業かと思っていましたが、日本にきて見ると実際の農場ではやはり手作業が多く、日本人はほんとうによく働くと思いました。

7. 合同研修会について

8. 本邦での生活状況

日本の農村の人のくらしは、ブラジルの人とくらべてほんとうに良く働きますので、最初はなかなかついて行くのに辛かったですけれども、少しずつなれてきました。日本人は一生懸命にやるだけあって、自分の目的についた時の喜びはだれよりも一番あじわえるのではないかと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

ブラジルやアメリカ、世界中の国との交流がますますさかんになるためにも、これからもずっとこの事業を続けていただきたいと思います。

10. 所 感

日本で学んだ技術をいかして、短い期間ではこたえはだせないとは思いますが、少しずつ思いだしながら、いつかは日本のような良い品質のぶどうを作って、多くの人によろこんでもらいたいと思います。それから、ぼくたちのお世話をしてくださった人たちのおかえしとして、ぼくたちも、日本や外国の人たち、研修生をうけいれて、少しでも世の中の人たちのやくにたつような農業をつづけていきたいと思います。



古賀百合ルスアンヘラ

1. 研修機関 (1) 前期 ユニバーサル電子計算株式会社
(2) 後期 同上
2. 研修期間 1年4月～2年9月
3. 研修職種 コンピュータ技術

4. 当初の研修計画

コンピュータのシステム分析やシステム設計、そして、プログラム作成、プログラム修正やプログラム保守などを研修するつもりだった。日本語をもっと上手に話せるようになりたいと思いました。

5. 研修概要

研修内容

- | | |
|---------|--|
| 一年5月～7月 | コンピュータ全般についての本を読む。 |
| 一年10月～ | コンピュータのシステム分析、システム設計 |
| 二年2月 | コボルのプログラム作成、プログラム論理の組み立てとコボルの概念や分析などについての本を読み勉強する。
その他、会社以外の所へ見学やいろいろなセミナーのために行く。
この期間、時々みんなの前で点呼とスピーチをする。 |
| 二年3月～ | コボルのプログラムの作成を始める。 |
| 二年4月～5月 | 新入社員と一緒にフローチャートの作成やコボル言語についての講習を受ける。(又4人グループでコボルのプログラムを作る) |
| 二年6月～9月 | 自分一人でコボルのプログラムを作る
会社からもらったフローチャートの問題やAPTITUDE TESTをする。 |

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

最初の研修計画と実際の研修を比べて、ある程度、私の希望通りにできるようになりました。

会社で私が覚えた事は具体的には、コンピュータ言語の一つのコボル、基本的なプログラム論理の組み立て、システム分析、システム設計、プログラム修正などが、完全ではないけれど、だいたいできるようになった事です。

だけど、コンピュータや日本語の勉強をもう少ししてくれば、もっとよい研修になったと思います。最初、会社でやっている事についていけなかったけど、最近やっとわかってきたと思ったら、私の研修も終わりに近づいてしまって、とても残念だと思います。

7. 合同研修会について

6ヶ月に一度の合同研修会はとても良い制度だと思います。

ふだん、会えない人と会い、意見の交換ができるのは楽しい事です。

8. 本邦での生活状況

私は、センターで生活できてとても運が良かったと思う。私の回りに他の研修生がいつもいてくれたので辛い時でも頑張れた。研修をふり返り、時々日本でも生活に困ったり、悩んだりした事もありましたが、会社でみんなに教えてもらったり、センターでみんなに助けてもらったり、いい思い出もたくさん作る事ができました。

日本で覚えた事があまり多くないかもしれませんが、日本の進んだコンピュータ技術をみる事ができて日本へ来てとてもよかったと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来る前に：

① 研修場所がどんな所か？とか ② その研修にはどれくらいの日本語能力やその専門知識が必要か？

③ 研修の間、どんな事をするか？という事をもっと知らせてほしい。

10. 所 感

今、一年以上日本に住み、日本語がある程度わかるようになって思うことはいろいろ悪い面もあるけど、やっぱり日本は安全でいい国だと思います。

帰国してどこで働くか、まだ決めていません。

帰ってすぐには日本で習ったことを使わないかも知れません。でも、コロンビアへ帰ってからでもコンピュータや日本語の勉強は続けるつもりです。そして将来はコンピュータを使った仕事をしたい、と思っています。

日本で覚えた事を生かしたいからです。



1. 研修機関 (1) 前期 東北大学電気通信研究所
野口研究室
(2) 後期 東北大学電気通信研究所
野口研究室
2. 研修期間 平成元年4月～平成2年9月
3. 研修職種 コンピュータ (ネットワーク・システム)

4. 当初の計画

通信網に関して

- ㉞ プロトコルの仕様段階～実験段階等
- ㉟ サービスの仕様段階～実験段階等
- ㊱ ネットワークの管理と制御法
- ㊲ アーキテクチャ及び構造

5. 研修概要

私は野口研に入ってSEND・メール (通信ソフトウェア) を変更する為に“C”言語の勉強を始めました。そのソフトの通信ポートをチェックする為のプログラムを作ってからエキスパートシステムとインテリジェント・ネットワーク (IN) に関しての勉強を同時に始め、又、それに関していろいろな論文やシステムや研究テーマやオペレーティング・システムをも含めてゼミで発表しました。

研修の期間は短いと思いましたが、できるだけ計画に関して新しい多少の知識を得られれば良いと思いました。まとめると下記ようになります。

㉞ エキスパート・システムに関して

● エキスパート・システムの構成

- 専門知識を管理する為の知識ベース。
- 知識を利用して推論実行する為の推論機構。
- 知識ベースの構築を支援する為の知識獲得モジュール。
- ユーザにとってシステムを使いやすくする為のヒューマン・マシン・インターフェース (HMI)。

- 結論の根拠をユーザに説明する為の推論過程説明モジュール。

- データを管理する為のデータ・ベース機能。

● 知識表現モデル

- ルール・モデル: 知識をルールの集合で表します。

- フレーム・モデル: 形にはまった知識 (スロット) で表します。

●エキスパート・システム言語

推論をできるのが特徴の言語です。

- OPS83
- PROLOG
- “C”

④インテリジェント・ネットワークに関して

●サービス導入のフェーズ

- ユーザからのサービス概念
- サービス仕様と記述
- プロトタイピングと実験

●アーキテクチャ

- カスタマー制御の為のアーキテクチャ
 - - トランスポート・ネットワーク
 - = 音声とデータを含めています。
 - - 信号方式ネットワーク
 - = CCSS No.7
 - = ISDN-Dチャンネル
 - - サービス・ネットワーク
 - = ソフトウェアに適用したSCPのデータ・ベース
- サービス制御の為のネットワーク・アーキテクチャ
 - - インテリジェント・ネットワーク
 - = NSSP
 - = パケット・データ・ネットワーク
 - = NSP
 - - トランスポート・レイヤー
 - = デジタル・ネットワーク
 - = アナログ・ネットワーク
 - - CCSS No.7はINとトランスポート・レイヤーの間で設けています。
- インテリジェント・ネットワーク・アーキテクチャ

INの目的（サービスの迅速な導入と展開かつ標準的で柔軟なネットワーク制御等）から見てアーキテクチャは次のように変化をしました。

 - - IN1
 - = SSP, STP, SCP, SMSとCCSS No.7を基にしている。
 - (例: ABS, BOC800サービス, PVN)
 - - IN1+

=サービスから独立したアーキテクチャ

(サービスに依存せずに新しいサービスを創造する)

= Stds. → Tr's (Technical References) → Implementation の順で実現を計画。

= SLP, IP, IN1

-- IN2

= IN1からの発展

=完全に分散された呼処理の能力

=すべての機能のサービス創造環境

= NID, FN, IN1+

⑨オペレーティング・システム

●ディスク・スケジューリングに関して

ディスクでデータを捜す時間をもっと短くする為の方法です。

- 種類

= FCFS, SSTF, Scan, N-Step scan, C scan,
Eschenbach Scheme, SLTF

●データ・ベース・システム

集合したデータ・ベース。このシステムはデータ、ユーザー、ハードウェア、ソフト等も含めています。

- データ・ベースの種類

-- 階層データ・ベース

-- ネットワーク・データ・ベース

-- リレーショナル・データ・ベース

●ファイル・システム

セカンド・ストレージでファイルの管理やアクセス方法やファイルも共通にするシステムである。

- ファイル保存方法

-- セーケンシャル

-- インデックセッド・セーケンシャル

-- ランダム

⑩ゼミで発表したテーマや論文とその論文とテーマの目的

●エキスパート・システム

- I-Test

ベルコア・クライアント・カンパニー (BCC) のスイッチング・コントロール・センター (SCC) 既存マニュアル・テスト方法を実験的に行う為の検討, 又, ネ

ネットワーク操作環境への人工知能技術の有効な適用を示すこと。

- Hierarchical Classification

診断システムに階層分類を適用してセンサー検査に関する問題を解決する方法。

- Gems - tts

基本モデル・エキスパート・システムにヒューリスティックとストラクチャーとビヘイビアを適用して通信ネットワーク故障を孤立させる為の一検討。

●通信網アーキテクチャ

- ソフトウェア定義アーキテクチャ (SDA) の構想

INシステムは提供規模や利用形態がサービス毎に異なる為、固定アーキテクチャで常に最適な条件下でのサービス提供をする為の問題点解決。

- 既存網へのIN機能の現実的導入法

初期段階における、IN機能の導入における課題とそれらの解決。

- オブジェクト指向に基づく通信網機能アーキテクチャ

通信網機能アーキテクチャの検討におけるオブジェクト指向の適用の考え方。

●通信網のサービス

- INにおけるサービス実行環境

ネットワークサービスの多様かつ高度な要求に柔軟に対応する為の、外部から定義される不特定なサービス仕様を処理する為のサービス実行環境。

- INにおける通信サービスの論理化と抽出化

INにおいて柔軟性を与える部分の範囲とその実現法。

- 非エキスパートを指向したサービス仕様記述法

試作システムにおいて非エキスパートでも簡単にサービス仕様が設計できること。

●通信網の管理と制御

- INにおける伝達網の仮想化モデル

INにおいて伝達網をサービス非依存の形に仮想化する手法(モデル)、及び仮想化された伝達網を制御する方法。

- INにおける伝達網の制御

サービス制御構造を手本として、実際の伝達網構造に非依存的な制御法とそれについての実行環境。

- INにおけるリソース管理方式

INで目指すところは様々な通信サービスを柔軟に実行できる環境の提供にあり、その為処理手順を扱うリソース管理方式が必要である。

- INにおける網サービス情報管理法

INは外部からソフトウェア定義により多様なサービスを実現するもので、それぞれの

サービスを運用する為には、管理レイヤのサービスに対応した各種情報（網サービス情報）を管理する必要がある。

- カスタマ制御による回線再構成

カスタマ制御によるカスタマ網の回線再構成の分類と管理方法。

● 通信網のオペレーション（ヒューマン・マシン・インタフェース）

- ネットワーク管理用HMI

集約、統合化された保守形態における網オペレーション・センターの保守端末のHMI。

- 通信網構成管理におけるHMI

通信網構成管理実験システムにおける高信頼、高性能化をはかる為の、直接操作法を導入したHMIの実現。

● ソフトウェア

- INにおけるサービス提供システムソフトウェア定義化

サービス提供システムをソフトウェア定義する為の要求条件と、これを可能とするINのプラットフォームの構成法。

④ 使用した機械

- 富士ゼロックス・ワード・プロセッサ（J-Star II）

- NEC9808

- 東芝AS3000

6. 当初の研修計画と実際の内容とを比較して

最初の計画と比べると内容が少し異なったようです。日本に来る前に良く調べずに大きな計画を立てましたが、1年半ではやり無理でした。しかし、いろいろな会社（NEC、NTT、CATV等）を見学し、又、中央大学で行われた全国情報通信学会にも参加し、当初の研修計画以上に様々な分野を幅広く勉強することができました。

もちろん研修の他に、日本でしか学べないこと（風習、文化、日本人との付き合い、日本での生活等）について学ぶことができたのでとても勉強になりました。

7. 合同研修会について

合同研修会は6ヶ月毎に行われます。合同研修会は研修生全員に会える唯一の機会なので私にとっては一番の楽しみでした。ここでは慣れない日本での生活状況、研修先での問題点、悩み事等の意見交換ができます。話しながら友情を深め、溜まったストレスも解消され、沢山の思い出を作ることができ、とても良いイベントだったと思います。しかし、私達にとって大切な合同研修会をもっと良くする為、下記の意見を提言します。

⑦ 支部の担当者も参加すること。

支部から離れた所にいる研修生は担当者と余り会う機会がありません。今回の合同研修会のように担当者の方々が参加すれば私達ももっと親しくなることができますし、後で悩みごとがあ

っても相談しやすくなると思います。又、担当者の皆さんも研修生のことをもっと理解できるようになると思います。今後も参加を続けて欲しいと思います。

① 期間をもっと長くすること。

今回の合同研修会は北九州（福岡）でやりましたが、実質2日間と、とても短く、落ち着く暇もありませんでした。

② 活動の内容について簡単な説明をすること。

今までの合同研修会では、余り活動の内容がわかりませんでした。

③ 研修生だけの自由時間を作ること。

せっかくみんなと会うので、ゆっくり話す時間が必要だと思います。

④ 研修結果を報告する時はOHPで説明すること。

それぞれの研修生にとって、他の人は何をやっているのか、もっとわかりやすくなると思います。

8. 本邦での生活状況

最初の1ヶ月半は海外移住センターで他の研修生と日本語の講習を受けながら暮らしました。その語研修先（仙台）へ移動して日本での一人暮らしを、6畳間のアパートでスタートしました。仙台に来てからは日本語が余りわからなかったので時々困りました。又、文化、風習、生活状況、考え方、性格等、日本とドミニカ共和国では違う点が沢山あり、まるで地面に吸い込まれているような感じでした。しかし、次第に慣れてきて、日本に関していろいろなことが理解できるようになり、友達もできました。現在では生活には余り問題はありません。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私達19回生は日本にいる間に、いろいろな残念なことが沢山ありました。これからの子弟技術研修制度に対する要望は沢山ありますが、主なことを下記に示します。

① 合同研修会だけではなく、みんなが参加できるようなもっと別のイベントを作って欲しいと思います。例えば、クリスマス・パーティ、キャンプ、スキー・ツアー等、もしできない場合は、自主的な活動ができるよう、センターの貸与等の支援をして欲しいです。

② 子弟技術研修生が事件事故等にあった場合は研修生全員に知らせること。被害者を安心させる為に研修生同士で手紙を出したり、電話を掛けたり、見舞いに行ったりすれば本人ももっと心強くなると思います。

③ 日本の生活状況に対して、研修生が早く慣れるように協力すること。落ち込まないように時々電話を掛けるようにするだけでも違うと思います。

④ 見学に関して観光地の他に、工場等を見学コースに含めた方がよいと思います。

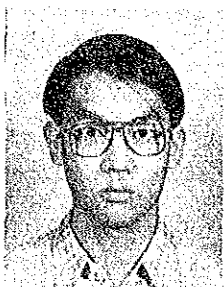
10. 所 感

帰国後は、日本で学んだことを職場や社会でできるだけ活かして活躍したいと思っています。両親の故郷で親戚に会え、沢山の思い出と沢山の友達ができました。困難な生活事情と研究の間

題点をどうにか乗り越え、日本はどういう国なのか自分なりに学びました。この1年半は私にとって今までの一生で最高の経験だと思います。

国際協力事業団（本部と海外移住センター）及び、東北支部の方々、東北大学電気通信研究所野口研究室でお世話して下さいました方々、生活面で応援して下さいました人達も、この1年半いろいろお世話になり誠にありがとうございました。又、研修生の仲間達にもこの1年半良い思い出を作ることができました。心から感謝しています。いつか会える日まで……さようなら……。

小 林 ベニト



1. 研修機関 (1) 前期 長野県立南安曇農業高等学校
〒399-82 長野県南安曇郡豊科町
大字豊科 4537番地
(2) 後期 長野県果樹試験場
〒382 長野県須坂市
大字小河原 492番地
2. 研修期間 平成元年4月～平成2年9月
3. 研修職種 野菜及び果樹（基礎的栽培技術）

4. 当初の研修計画

本国メキシコでは、メキシコ市立大学の農学部で半年程勉強していました。しかし、農業の経験はまったくありませんでしたので、その知識と関心を深め、身につけることを本研修の目的としました。

5. 研修概要

前期1年間は南安曇農業高等学校で野菜栽培の基礎を中心に、研修をしました。毎日、2学年や3学年の生徒達と一緒に野菜の授業を受けたり、構内の圃場で実習をしました。

自分は大学生で高校生に戻ることに少しは抵抗を感じたものの、簡単なことだと思っていましたが、毎日知らない漢字や専門用語が教科書や参考書に次々とでてきて、初めはとても苦勞をしました。ですが、徐々に字や言葉を理解し、文章の内容が分かるようになりました。

授業の内容は、植物の生理生態、農作物の分布や特徴、栽培の要点、土壌の性質やその中で生活する微生物の働き、また、この微生物が植物の生育にどのような影響を及ぼすか、など様々でした。

実習の方では、生徒達と色々な物を栽培してみました。ビニール温室で、キュウリ、ナス、トマトなどの果菜類、路地ではハクサイや野沢菜の葉菜類、根菜類はタマネギを育てました。

野菜類だけでなく、いろんなことを体験してみるようにと、担当の先生に勧められ花栽培も少

し勉強することになりました。ただし、これは高校付近の農家実習でした。毎週1回か2回、交互にカーネーションとシクラメン農家へ通い、いろいろと話を聞きながら作業の手伝いをしました。校外実習はこの他、リンゴ農家1けんや担当の永田先生の実家（須坂市）のリンゴ園で果樹関係の勉強も少し始めました。

高校での実習の中で研究することも勧められ、温室栽培の土壌に微生物や化学肥料を加えることによって、トマトの生育にどのような影響を及ぼすか、試験をしました。

後期6カ月半は研修機関を長野県果樹試験場に変えました。ここでは、果樹栽培（主にリンゴ）の勉強をしました。全体的な研修内容は、開花から（4月中旬）収穫（品種によって異なりますが、8月上～中旬、8月下～9月上旬）までのリンゴの主な栽培管理作業を覚えながら、試験場の研究員や技師の先生方の指導に従って圃場で行われた試験にも参加し、自分でもその中の3つ程を受け持ちました。

研究内容は、植物調節剤を使って、散布時期、散布濃度、果実に散布する場所を変える事によって、果実（りんご）の肥大促進、及び果実の品質にどのような影響があるか検討しました。

6. 合同研修会について

18カ月間の間に4回行われて、どれにも参加させていただきました。昨年4月に先輩方に歓迎され、来たばかりの私達をはげましてくれた合同研修での交流が、皆の日本で一番に作った思いでだったと思います。それから6カ月が過ぎて、9月帰国する先輩達を見送る前に移住センターに集まって、又色々な楽しい話やアドバイスを聞かせてくれた合同研修が何よりの楽しみでした。今年の4月は後輩達を楽しく迎えました。それから間もなく7月の終わりに、北九州で集まって皆に会えた訳ですが、9月には合同研修が行われない事を知らされてとても残念だと思いました。それはやはり、先輩として帰国する前に後輩に会って研修の残り時間、一生懸命頑張るようにとはげましの言葉をいいたかったです。ですから9月の合同研修は取り消さないで欲しいです。

7. 本邦での生活状況

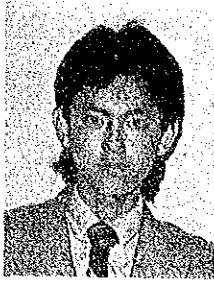
前期、後期共に寮生活をしました。ですから、食事は寮母さんに用意していただき、洗濯機も建物に設置してあるものを各自自由に使わせていただいていたいました。風呂は共同浴場でしたが、関係なく浴びられました。その他は問題ありませんでした。

8. 所 感

本研修では、18カ月の間に、目標としていた野菜や果樹栽培の基礎知識を学べた他、両親が生まれ育った日本で自らいろんなことを体験することができました。又、自分と同じように南米で育った同期生と交流し大切な友情を結んだ事が一番大事だったと感じました。

いろいろと御指導や御世話になった先生方有り難うございました。心から感謝申し上げます。

これからメキシコに帰ります。休学して来た大学へもどり残りの3年半の勉強をしなければなりません。卒業後のことはまだはっきりと決めてありませんが、日本で学んだことをおおいにいかして、自営業なり、農業技術指導なり一生懸命仕事をしたいと思います。



宮本浩一エドゥアルド

- | | | |
|---------|------------------|----------|
| 1. 研修機関 | (1) 前期
(2) 後期 | 山梨県果樹試験場 |
| 2. 研修期間 | 1989年5月～1990年9月 | |
| 3. 研修職種 | 果樹 | |

4. 当初の研修計画

日本のブドウ、モモの栽培技術を修得する。

5. 研修概要

私の今回の研修目的は、日本における果樹、特にブドウ、モモの栽培技術を修得することにあります。

〔私の家では、ブドウ（オリンピア、ルビー、オクヤマ、巨峰など）スモモ、モモ、マンゴーなどを栽培していますが〕。

ブドウのしゅうかく時期にあたる11月から1月に雨が集中するため、てえとうど、びょうき、れっかなどの問題が多くあります。これらについて解決方法を勉強しました。

1) 山梨の気おんについて

最高気温30～37℃、年間降水量約1200mmとほぼパラグアイと同じであるが、温度が高いことと冬の最低気温が-6～-10℃まで下がる点がことになっていた。

2) 栽培かんりについて

● 整枝剪定

ブドウを栽培する上でいちばんたいせつなことだとわかった。山梨ではXがたの長梢剪定が行われているが西日本ではHがたの短梢剪定が行われている。長梢剪定は果実品質がいずれの品種でも良いが、とてもむずかしく今回の研修だけでは勉強しきれなかった。短梢剪定はかんたんであるがベリーA、ピオーネなど品種をえらぶひつようがあるとわかった。パラグアイに帰っても是非検討してみたい。

● 房づくり摘粒

パラグアイではやらないが日本ではより高く売るために品種をそれぞれ一房ごとにほぼ作り方がきまっていた。巨峰では満開期に房のちゅうたんを8cm、けつじつご一房30粒に、ピオーネでは開花始めに房の尻3.5cm結実後30粒7cmに整形した。いろいろな品種で全く異なるがほとんど理解できたと思います。

● びょうがいちゅうについて

日本での代表的びょうがいは黒とう病、べと病、うどんこ病などが、虫害はアブラムシ、ダニ、スリップスによるものが多いとわかった。やくざいさんぶの方法はほぼ同じであるが、やくざいが日本とちがうためにもっと勉強したかった。

●ブドウの品種について

山梨の果樹試験場でウィルフリー化されたいろいろな品種を勉強できたが、いずれもパラグアイにくらべてひんしつてきにすぐれていた。きこくご、ぜひこれらの品種をさいばいしてみたい。

3) 研修全体をつうじて

日本のうぎょうはせまいめんせきにけいひを多くかけ、よりひんしつのよいものを作り高く売る方法をとってとても感心した。これら研修したことをパラグアイでりようし、よりのうかのりえきが上がるように努力したい。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

栽培の基本である整枝剪定技術については研修が不十分であったが、それ以外のことについては自分が思っていた以上に勉強できた。

7. 合同研修会について

日本に来たばかりの人達にとっては相談する人に会えるのでとても大切な場所だと思う。もっと回数を増やしてほしい。

8. 本邦での生活状況

友達がたくさんできてとても楽しかった。

病気を2度したが、その時はさみしかった。それ以外では日本の生活にとけこむことができ何ら問題はなかった。

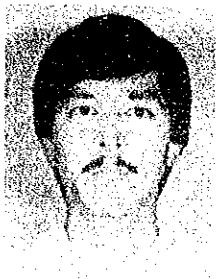
9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

途中で担当者が変わることは良くない。変わっても連絡引きつぎをしっかりとしてほしい。もっと研修生の立場になってしんげんに考えてほしい。

10. 所 感

山梨県果樹試験場の職員のみなさんにとっても親切にさせていただいて感謝しています。特にその他の研修先と異なり若い職員の人達と仲間として同じ様に遊びや仕事ができとてもありがたかった。またこういう研修ができたことについてJICAのみなさんにもとても感謝しています。今後ともこのような研修はつづけてほしいと思います。

ここで勉強したことを自分のものだけでなく地域の人たちに広めていきたいと思います。



渡辺正寿ロベルトクロービス

1. 研修機関 (1) 前期 福島県畜産試験場
(2) 後期 有限会社 郷畜産
2. 研修期間 平成元年4月～平成2年9月
3. 研修職種 畜産(豚の飼育と食肉加工)

4. 当初の研修計画

1. 養豚場での実習, し育(低コストの飼料)

- ① し育のし料の与え方 ② かん理の仕方 ③ ほ育 ④ えい生かん理の仕方
- ⑤ はんしょく技術 ⑥ はつじょうと交はい ⑦ 人工じゅせい
- ⑧ 豚の改良 ⑨ 豚の系とうとけん定, ⑩ 枝肉の調査, ⑪ 肉豚の生産とりゅう通

2. 食肉加工での実習と技術

- ① 枝肉のほぐし方 ② 枝肉各部のカットの仕方
- ③ ロースハム・ウインナーその他加工品の造り方 ④ 加工品の規かくと流通
- ⑤ えい生管理について

5. 研修概要

1. 豚のし育の技術について

- ① 福島県畜産試験場では最初の2ヶ月間は豚舎で実習を通して, 実際に豚の飼料をどのようにして与えたらよいかを実習し, よい管りの仕方を学んだ。
- ② 後半はいろいろの技術と知しきについて研修した。

主なことは

- ① 合理的な飼料のはい合の仕方, 体重の増え方をしらべた
- ② 毎日の管理とき節別のかん理の仕方
- ③ 豚舎の消毒と衛生かんり
- ④ 豚の発じょうと自然交はい, また人工じゅせいの研修
- ⑤ 豚の改良の原りと方法, とうろくせい度
- ⑥ 枝肉で規かくの実さいの研修
- ⑦ 日本の豚肉のりゅう通の実さいを学ぶ
- ⑧ 生産農家, と場, セリ市場, 共しん会を見学した。

成 果

試験場なのでいろいろの豚舎, 試験していたので, 広い知しきと実さいを基から学ぶことが出来た。よう豚について自しんがついてきた。

2. 食肉加工について

郷畜産は手造りの会社で規模が小さいが, 原料肉のことからせい造はん売まで一通り実さい

にやり研修した。

① 枝肉について

- ④ 枝肉から骨をはがし、部分肉にカットした。
- ⑤ せい肉を切り、バックづめにした。
- ⑥ 豚の丸やきをしてお客さまにせたいなどのことをした。

② 加工について

- ④ 原料肉をせいりし、ハム類やソーセージのいに分けることができた。
- ⑤ つけ込液をつくった。 ⑥ ロースの糸巻 ⑦ スモークの仕方
- ⑧ ボイルの仕方 ⑨ スライスの仕方 ⑩ しん空バックづめ

枝肉から骨をはがすことから、しん空バックづめ、はん売まで全部やり80%位できるまでになった。家ぞく的でたのしくやれたのが大へんよかった。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

① 福島畜産試験場では

学問的なので、前ばんは実習をやり、言ばをおぼえながら、実さいに体を使ってのことで、よくおぼえた。学もん的なことは、せん門用語が多くて、よくりかいできなかったが、だんだんわかり、計画の80%位はできたと思う。

② 郷畜産では

学問的より実さい的で、知るより出来るかということで技術的には満足出来た。学もん的にはもう一歩だと思う。80%位は(計画の)出きたと思う。

7. 合同研修会について

1. 横浜合同研修会

① き間は1か月半でよいと思います。

19回生が、ねおきやしよく事を同じくし安心して研修ができた。(友人の気もちや、心がよくわかった)

② これからの長い研修が出る自しんがついた。

③ 職いんが親せつで安心し、たのしかった。

2. 北九州研修会

① 楽しかったがかなしかったことがあり、いやな思いをした。

② 期間が3日かんと短く、友人と話すことができなかった。

③ こ室でさびしかった。5人位の部屋で寝たかった。

8. 本邦での生活状況

○言葉のことは少し不自由なこと(とくに電話の話し)はあったが思ったよりよかった。

○食事もとくにすぎ、きらいが無くて不つごうは無かった。

○多くの親せきに会うことができ、また留学生、ホームステイで多くの人と知り合い大へん楽し

かった。

○長い休みには日本のいろいろの所に行き、れき史、文化、自ぜんを知り、良い思い出がたくさんできた。

○よくを言えば、もう少しゆっくりした、ひまがほしかった。

○それぞれの所で、いろいろの人の親せつと思いやりによって楽しくがんばれたことに感しゃしている。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- ① 1年目は言ばの不自由や、習かんのちがいから困ることはあるが、2年目からはなれて自信がつくるので、もう少し時間的にゆゆうがあり、経ざいももう少しゆゆうがあれば、もっともっと効果が上がると思う。
- ② 1年間が終われば、それぞれの研修機かんからの報こくや何か方法によって、資格を与えてもらい、もう少しはっきりした資格がほしい。

10. 所 感

- 1) 期間が短く、研修の内ようをおぼえるのに困った。もう少し長いき間ほしかった。
- 2) 言葉のちがい、生活のちがいがなかなか自分のものにならないので困った。
- 3) き間中、研修先の仕事がいそがしく、時間のゆとりが十分でないので、旅行や見てあるくことが十分できなかったのはとてもざんねんであった。
- 4) 日本人は、はたらくこと、生活がいそがしく、これに合せるのにつかれた。
- 5) 研修で日本のかかりの人はあるときはやかましく言われたが、親せつであった。
- 6) 豚のしいくではこまかく研きゅうしているのにおどろいた。帰こく後はこれをもとに研しゅうしたかいがあるようにしたい。
- 7) 豚肉はぶぶんにカットされ、又その部分がちがっているの、帰国ごはこのやり方でぜひやりたい。
- 8) 加工は、つけ方やこうしんりょうがけんきゅうされ、つくり方もこまかいが、よくできている。帰こくごは、ほんとうにこのやり方でつくって、うって、金もうけをしたい。
- 9) 研修をやり、日本のこと、せかいのことがいろいろわかり、帰国ごどうしななければならないかわかったので、大へんよかった。



1. 研修機関 (1) 前期 } (株)富士通南九州システムエンジニアリング
(2) 後期 }
2. 研修期間 1989年4月～1990年9月
3. 研修職種 システムエンジニア

4. 当初の研修計画

パソコンのネットワークを学びそれとDbase III Plus のプログラミングについて理解を深める目的でした。

5. 研修概要

- ① Dbase III+ 上級プログラミング Q & A System を作成しました。パソコンに関する問い合わせ、それに対する回答をまとめたシートをQuestion & Answer Systemと呼んでいます。
- ② Lotus Lotus を使って経営用グラフの作成やマクロ機能の使い方やデータベースの操作やDbase III でつくったデータの交換
- ③ Network まずネットワークを構築する上で基本的な知識を勉強し、使用方法を修得した。さらに通信ソフトをインストールし Dbase III+ を使うことによって、さらに理解を深めました。
- ④ Install Fujitsu のパソコンのFMR-70-HX2のインストールをやりました。
- ⑤ Basic Advanced Programming Fujitsu のお客さんである病院のシステム開発に参加しました。そのシステムはBasicを使ったプログラムで自分が持っていたBasicのスキルを向上させることができました。

パソコンの勉強をするだけでなく利用者の立場に立って、使いやすいシステムを作るにはどうしたら良いかと言うことを学びました。

6. 当初の研究計画と実際の研修内容を比較して

振り返って見れば、私が思っていた以上にいい研修ができました。それは幅広くパソコンのことを勉強することができましたので目標以上の成果が得られたからです。

7. 合同研修会について

合同研修会は、全国の研修生が集まるとても貴重な機会だと思います。日本の社会生活の体験、悩みについて、お互いに話し合う良い場でもあります。去年の9月の合同研修会に出席した時に18回生の見送りをして、とても感動しました。ぜひ私たちも20回生に見送りをしてほしいと思ったのですが、今年の9月に20回生は出席しませんので残念です。

8. 本邦での生活状況

最初の40日間海外移住センターでラテンアメリカの人達と一緒に生活していましたので、日本に来ている感じはしませんでした。この期間が終わって、熊本県へ行きまして、そこで違う生活が始まりました。アパートを借りて必要な物を買って初めての一人暮らしをして良い勉強になり

ました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私は日本語がよくできなかったので、最初の頃苦労しました。ですから今後の研修生には自国で、もっとしっかり日本語の勉強をしてきてもらいたいと思います。その上で一日一日過ごす時間を大事にして下さい。

10. 所 感

日本で研修ができたのを本当にありがたいと思っています。コンピュータだけではなく、色々なことについて勉強ができました。

私にとって、この一年半、一生忘れません。帰国後、日本で学んだことをできるだけ伝えたいと思います。それと日本語を忘れないために日系企業で働きたい。

最後に国際協力事業団の皆様をはじめ、富士通九州の皆様そして友達、大変お世話になりました。ありがとうございます。心からお礼申し上げます。

Muchisimas Gracias!....



宇田川 智 代

1. 研修機関 (1) 前期 香川大学農学部附属農場
(2) 後期 同上
2. 研修期間 平成1年4月～平成2年9月
3. 研修職種 植物組織培養

4. 当初の研修計画

テーマ：ランおよび観葉植物の組織培養による繁殖

1. ラン種子の無菌培養および茎頂培養などの基本的技術を習得する。
2. 観葉植物の組織培養による繁殖についての基本的な技術を習得する。

5. 研修概要

研修内容は以下のように大別できる。

(1) 大学での講義の聴講

「花卉園芸学総論」, 「花卉園芸学各論」, 「植物生理学」, 「植物形態学」

理解できない科目もあったが、組織培養の技術を習得する上で、これらの学問が必要であり、役に立ちました。

(2) ラン種子の無菌培養

カトレヤ、ファレノプシス、エビネなどの人工受粉、採種および無菌採種について、一通り学びました。

(3) ランの茎頂または葉片培養による繁殖

シンビジウムの茎頂培養とファレノプシスの葉片培養を行い、PLB(プロトコーム状球体)の形成と増殖段階まで実験しました。

(4) 観葉植物の組織培養

フィカス、ディフエンバキア、カラジューム、アンスリュームの茎頂培養を実施しました。カラジュームはうまくゆき、多くの苗が得られたが、他の植物では汚染のため失敗しました。採芽技術がふじゅうぶんであったと考えられる。

(5) その他

ガーベラ、カーネーション、イチゴの茎頂培養とクンシランの子房培養を行った。茎頂培養では良い結果が得られなかったが、クンシランではカルスが形成され、現在カルスの増殖をしている。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

ラン、観葉植物の組織培養による繁殖について希望していましたが、計画どおりに研修できました。

7. 合同研修会について

合同研修会のスタイルはずっと続けてほしいと思います。

友達と、今までの経験を語り合うよい機会だと思います。

合同研修会は、トラッドなものになってほしいです。

8. 本邦での生活状況

日本へ来る前から、ずっと一人暮らしに憧れていたもので、日本でそういうチャンスに巡り逢えたのが、すごくよかったと思います。一人で生活していると、寂しい時もありますが、時の流れに身を任せ、それをのり越えることができたと思います。

日本の季節について、春と秋はとても短く、冬はモンテビデオと似たようなもの、夏はまさに暑く感じました。

健康には、なにも問題がありませんでした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び希望事項

日本に来る前に、日本の社会および生活、習慣のガイダンスを十分にしたいと思っています。

10. 所 感

現在、1990年これから、「緑」豊かで平和な社会ができればいいなと思っています。それが、私の最大の夢です。そのような世界になってほしいと思います。

この年に、「国際花と緑の博覧会」を視察でき、うれしく思っています。



児玉寿夫 アレハンドロ

1. 研修機関 (1) 前期 } トヨタ自動車株式会社
(2) 後期 }
2. 研修期間 '89年4月～'90年9月
3. 研修職種 自動車製造業

4. 当初の研修計画

(1) 背景

私は自動車技術に興味があり、将来この分野で働きたいと考えています。そこで国際協力事業団を通じ自動車先進国である日本での研修を希望した。

(2) 目的

- 1) ベネズエラにおける自動車生産に役立つ技術を学ぶ。
- 2) トヨタの車作りに対する考え方を学ぶ (将来 TOCARS/SERENCA で働きたい)。

5. 研修概要

(1) 研修日程

項目	部署	'89					'90											
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
Ⓟ	高岡第一製造部技術員室				Ⓟ													
Ⓜ	"				Ⓜ													
Ⓣ	"				Ⓣ													
Ⓐ	"									Ⓐ								
Ⓡ	高岡品質管理部検査課										Ⓡ							
Ⓚ Ⓜ	上郷第二機械部・E-1ライン										Ⓚ							
CAD/CAM	本社第一情報システム開発部																	
Service	日進研修センター教育部																	
Ⓟ	元町スタンピングツール部																	

(2) 研修項目および感想

項目	内 容	感 想
⒫	1 P板厚測定 2 不良発生率低減 3 工程計画書によるライン改善 4 改善組実習：変換装置	1 改善組において改善に対する考え方（楽な作業、ムリ、ムダ、ムラの排除、金をかけない改善等）良く理解。 2 VE（ベネズエラ）においてはこの考え方を植え付ける事が大切。
⒱	1 トヨタ生産方式（座学） 2 品質保証の進め方 3 QCの基本教育	1 座学で概要を勉強した為、現場でやっている事をよく理解。 2 QCは説明のみ。QC手法を使っての問題解決までして見たかった。
Ⓗ	1 塗装工程の概要 2 塗装検査 3 手直し工程実習	1 ①工程は環境に左右される事が多い。塗装品質安定の為検査や管理が大変重要。 2 VEではもっと塗装工程に力を入れること必要。
Ⓐ	1 部品の組付品質管理 2 車両構造：手直し工程 3 自動化設備	1 高岡の①工程は混合生産である為作業ミス防止が重要。VEはロット生産なので誤欠品の発生が少ないが将来、車のバリエーションが増えていくと思うので、この面での作り方対応が必要。
Ⓘ	1 品質管理活動の概要 2 ボデー測定検査 3 組立検査 4 車両検査	1 検査の調査解析4M（人、材料、設備、方法）について、なぜなぜを繰り返し何が真の原因かを調べる方法を実習。 2 車両の検査には、広く深い知識・経験が必要。VEでは検査員一人一人の教育をして不具合原因解析能力アップ必要。
Ⓐ Ⓜ	1 工程調査 2 品質管理体制 3 工程改善：自主研、自動化 4 E/G ラインの生産指示システム	1 自主研通じムリ、ムダ、ムラの発見改善の進め方及びチームワークの大切さを肌で感じた。 2 上郷工場では実際にラインのタクトタイムを測定、標準作業票を書き工程改善を実施。
CAD CAM	1 Portran 言語、UNIX教育 2 Caelum開発と改善 3 CAD/CAM 教育	1 自動車製造におけるコンピュータ活用方法理解。 2 ソフト開発実習したが、標準化が進んでおりソフト開発が容易。
Service	1 General course 2 Advance course 3 Instructor course	1 車両全体・E/G について機能・修理方法を理解。 2 部品一つ一つの機能を理解して車両に組み付けることの大切さ理解。 3 お客様第一主義の考え方が大切。
⒫	1 自動車の出来る迄の工程概要 2 プレス型製作ステップの検査 3 機差対策概要	1 機差対策で動的荷重検査を研修。これまでと違った技術的解析方法理解。 2 プレス型の不具合解析技術の高さに驚いた。VEに帰ったらもっとこのテーマについて大学で勉強したい。

(3) 総合所感

- 1 トヨタの生産に対する取組み方・考え方が肌で理解できた。いい物をタイムリーにお客様にお届けできる柔軟な生産体質を作る為に生産現場（技術サイド×技能サイド）が一体となって協力し改善活動をする事の大切さが理解できた。
- 2 品質確保には“作業員1人1人が不良品を後工程へ絶対に流さない”という品質造り込み活動が大切であると思った。又検査工程については、トヨタのような最新設備はVEでは無理なので、VEにあう検査方法を見つけて努力すれば、より良い物が造れると思う。
- 3 国際協力事業団を通じ、トヨタで一年半研修をして色々なことを学ぶことができた。トヨタで学んだことをそのままVEで実践するのは困難だが、これをVEにあうやりかたにアレンジしつつ学んだことを活かしていきたい。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修計画どおりに研修をした。

7. 合同研修会について

合同研修会はとっても大切で必要だと思う。この時だけ、研修生がみんな会える少ないチャンスで色々な研修生の困っていること、経験、…… etc. を聞いたり、話したりできるし、これについてアドバイスができるし、自分も色々なことについて注意ができる。そしてみんな久しぶりに会うのがなんとも言えない楽しさです。

8. 本邦での生活状況

一年三月はトヨタの寮で生活して、あとの三月は名古屋のAOTSの寮にいた。

寮生活は、私にとって、とっても良かった。寮の受付の人たちがとても親切だったので、病気がした時、困った時に、色々とてつだってくれて、助かった。日本での生活にはあんまり不自由はなかった。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

とっても良いと思っている。日本に来て、研修だけでなく、日本を知って、日本人たちと家庭生活や仕事の進め方が味わえて、自分の人生が新生した。

10. 所 感（帰国後の抱負を含め）

ベネズエラ帰国後に大学に2年間戻って、日本で学んだことを生かしながら勉強をしていきたい。

研修総括報告書（24カ月コース）



1. 研修機関 (1) 前期 神奈川県衛生看護専門学校
同付属病院
(2) 後期 神奈川県衛生看護専門学校
臨床実習病院四か所
(付属病院, 済生会神奈川病院,
済生会若草病院, 大口東総合病院)
2. 研修期間 平成元年4月～3年3月
3. 研修職種 看護婦

4. 当初の研修計画

少しでも看護の知識をと思い、この研修に応募しました。主に内科、小児科看護を勉強するつもりで来ました。

5. 研修概要

准看護学科の基礎科目と専門基礎科目を学びました。

はじめの頃は教科書を読み意味をとることが困難でした。その年の8月、やっと授業について行けるようになり、午前中は病院へ午後は学校へと通いました。その時は毎日が忙しくてハードだと思ってましたが、いま思えば来た4月からでも病院へ行った方が後期の臨床実習が楽に感じたと思います。

翌年の5月～11月にかけて臨床実習が行われるのですが、この2年間で一番つらい時でした。特に記録を書くことはとても時間がかかり毎日が睡眠不足でした。この時期を過ぎると残るは卒業試験と資格試験でした。

後期は実習と試験で毎日が大変でしたが、自習時間などもあり一番楽しい時間だったと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

全科、浅く広くといった感じで准看の資格をとることができました。内科、小児看護だけではなく全科学ぶことが出来たのでよかったです。

7. 合同研修会について

私達にとって他の研修生に会えることは何よりの励みになりました。皆と情報交換をし国際的交流を深める何よりのチャンスだと思います。

8. 本邦での生活状況

私は2年間横浜の移住センターでくらししました。とても楽しかったです。いつもにぎやかで、試験の時はうるさいと思った時もありましたが、皆、心温かな方で、何ひとつ困ったことはありませんでした。

9. 今後の子弟研修に対する提言及び要望事項

資格がとれるということはとてもうれしいことです。最も多くの研修生が資格をもらえるよう2年コースの研修生をふやしてほしいです。

10. 所 感

准看の資格をもって、2～3カ月位、日本で勤めてみたかったです。又チャンスがあれば正看の資格をとりたいと思ってます。

自分がこれだけ成長できたのは国際協力事業団のおかげです。事業団の方をはじめ、学校の先生方、臨床指導者の方々、そしてセンターの皆様に深く感謝いたします。



清水ネルソン靖夫

1. 研修機関 (1) 前期 サンコンピュータビジネス専門学校
(2) 後期 サンコンピュータビジネス専門学校
2. 研修期間 平成元年4月～3年3月
3. 研修職種 コンピュータ〔情報処理技術者(プログラマー)〕

4. 当初の研修計画

当初の研修計画は、システムの設計又はシステムエンジニアの研修でした。プログラムを組み合わせて、システムが出て、そして、そのシステムを別のシステムとの組み合わせを学ぶ目的でした。

一つのプログラムを作るのには余り難しい事はありません。しかし、システムを考える場合にはとても複雑になります。そして、コンピュータ技術が進んでいる日本でその技術を学びたいと思ってまいりました。

5. 研修概要

サンコンピュータビジネス専門学校では、情報処理科又は、プログラマーの研修を受けました。いろいろな授業を受けて、実習もやりました。授業では、ソフトウェア、ハードウェアとヒューマンウェアなどがあり、そして試験もやりました。でも、とても大切な言語の授業の時間が少なかったので残念と思います。その代わりに実習の時間とコンピュータも一人に一台で自由に使える事が非常に良かったです。

最初の一年間は苦労しました。授業の時間では、専門用語ばかりで時々全然理解できなくて、いらいらした事がありました。

初めは期待していた研修があまり予定どおりいかになく、少し心配し、いろいろ相談して研修を続けました。

学校では、システムエンジニアにまでなれるのには、いろいろとたくさんのプログラムを作っ

て経験をして行くことと言われました。その事を頭に入れてプログラムを一生懸命勉強しました。そのほかに、いろいろのコンピュータフェア、ビジネスマシンショウ、または技術事例発表会とか、そして工場の見学もしてたくさんの事を見学でき、とても良い経験になりました。

システム設計の勉強はできなく、この1年間いろいろのプログラムの作りかたを学びました。まだたくさん学ぶ事があると思います。これは仕事、または研究して行きながら、少しずつ良くして行きたいと思っています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

日本へ来る前には、少しのことで、プログラムはできましたので、実際はシステムの設計を学ぶ目的でした。そして、学校では言語の方の勉強が多いと思っていました。考えていたとおり全く違い、少しがっかりしました。しかし、学校の話では、システムエンジニアの特別な専門学校はありませんと、聞きました。そして、日本では何年間かプログラマーとして仕事していかなければシステムエンジニアにはなれないと言われました。初めに考えていた研修の内容とは違い、でも実際にプログラムを完全にマスターすることが大切だと思いながら研修をやって行きました。

7. 合同研修会について

合同研修会は非常に大切で、研修生たちには主要な事であると思います。それは、研修生たちが短い時間で集まっていろいろ話して、さびしさも忘れられる時でもあります。または友達関係がもっと深くなれる事でもあります。そのほかには、それぞれの研修生に問題あるいは悩みがあり、それを全員で考えながら相談することが大切と思いました。

最後の合同研修会は、いろいろほかの国からの研修生たちと会えた事がとてもよかったと思いました。

8. 本邦での生活状況

日本は初めてでその上初めての一人暮らしの生活で、少し苦労しました。でも、安全な国で、インフレがなく、とても良い国だと思います。住んでいた町はとても良く住みやすい所でした。

この2年間では、いろいろブラジルと日本の違いを学び、ほんとうに良い経験ができたと思います。

日本へ来たころは寂しさもあり、何をどのようにするのか分からなく不安な気持ちでした。でも、学校ですぐ友だちができ、いろいろ親切に教えてもらいました。

日本で2年間生活して、考え方も変わり、そして自分が日系二世に生まれてほんとうによかったと思いました。日本人として、ブラジル人として、二つの文化を理解し、二つの人生の生き方が出きる事はとてもうれしい事です。この機会で覚えられた事はとても将来に役立つと信じて、これからも頑張っていきたいと思っています。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

合同研修会の間に工場の見学、または有名な会社の見学が出できれば良いと思います。そして、それぞれの研修地方にほかのいろいろの研修生がいると思いますので、国際協力事業団からお知

らせをもらえると良いと思います。住んでいた町で、突然アフリカからのJICA研修生と出会って、いろいろ話して、友達になってよかったと思いました。JICAは一つの家族として、なるべくいろいろな人と出会って行く事がとても大切だと思います。

10. 所 感

この2年間にたくさんの事を学び、たくさんの人たちと出会って、とても良い経験ができてよかったと思います。

日本とブラジルの文化と考えかたの違いを感じ、そして国際的な見方が出きました。日本はずばらしい国ですが、しかし実際に住んでいて、生活して、いろいろな事を見て、自分が想像していた日本とはだいぶ違いました。日本人には自分のやり方があり、そして仕事のことは尊敬します。でも、人間関係については、まだたくさん覚える事があると思いました。

帰国のすぐ後に、大学の方を続けて、同時に仕事して、もっと経験して行きたいと思っています。

この期間にいろいろ良い事、そして悪い事も見られましたし、そして、研修で学んだ事を利用して帰国してから自分の夢を実現したいと思っています。

研修をよく、そして無事に終了できた事は、皆様が親切に受けてくださったおかげです。国際協力事業団の皆様、ほんとうに心から感謝しています。どうもありがとうございます。



門 脇 徳 美

1. 研修機関 (1) 前期 高知女子大学保育短期大学部
(2) 後期 高知女子大学保育短期大学部
2. 研修期間 平成元年4月～3年3月
3. 研修職種 幼児教育

4. 当初の研修計画

- 様々な園で、主に実習をし、それぞれの園での保育方針を見て学ぶ。
- ピアノを上達する事
- 大学を無事卒業すること。

5. 研修概要

1 回生前期受講科目

月曜日：心理学Ⅰ，法学，図画工作

火曜日：社会福祉Ⅰ，文学Ⅰ，小児栄養，養護原理Ⅰ

水曜日：社会学，英語，絵画製作Ⅰ，音楽Ⅰ

木曜日：乳児保育Ⅰ，保健体育，生物学Ⅰ

金曜日：保育原理Ⅰ，ピアノ，言語，歴史学

土曜日：小児保健

後期受講科目

月曜日：児童心理学，児童福祉，図画工作

火曜日：障害児教育，哲学，家庭管理

水曜日：健康Ⅰ，英語，文学Ⅱ，音楽Ⅰ

木曜日：保育実習Ⅰ，言語Ⅱ，統計学，音楽リズムⅠ

金曜日：保育原理Ⅰ，ピアノ，保健体育

土曜日：小児保健，精神衛生

2回生前期受講科目

月曜日：自然，体育

火曜日：音楽Ⅱ，同和教育

水曜日：経済学，小児栄養実習，保育原理Ⅱ，臨床心理学

木曜日：社会，乳児保育Ⅱ，小児保健実習，音楽リズムⅡ

金曜日：保育実習Ⅰ，ピアノ，社会福祉Ⅱ

土曜日：教育原理，教育心理学

後期受講科目

月曜日：生物学（特），体育，倫理学

火曜日：音楽Ⅱ

水曜日：心理学Ⅱ，文学（特），臨床心理学

木曜日：乳児保育

金曜日：美術，ピアノ，社会福祉Ⅱ

土曜日：絵画製作Ⅱ

以上がこの2年間の大学生活で私が受けました授業内容です。

その他付属保育所での実習が1回生の後期と2回生の前期にあり，私は1，2，3歳児を対象に実習をしました。

元年10月 — 10日間の養護施設での実習（幼児）

2年6月 — 14日間のたかしろ乳児保育所での実習（0歳児）

2年7月 — 10日間の盲児くすのき寮（施設）での実習（5日間男子，女子と交替）

2年10月 — 1カ月間の教育実習（年中児）

講義や実習を通して学んだ事は多く，特に実習では先生方に指導して頂いたり，子ども達によって気付かせて頂いたりで反省の毎日でしたが，一人一人の子どもを知って，子どもの気持ちになって考えてみると適切な対応をさせて頂けると思いました。

その他にも大学生活では，オリエンテーション，セミナーや大学祭を行い，その時，その時大

変ではありましたが、とても良い思い出になりました。

実習では部分保育や研究保育があり、どんな活動をするか子どもが興味を持ってくれるか不安でいっぱいでしたが、終えた後、先生方から講評していただき、色々な事に気付かせて頂き、良い勉強になりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

一回生の時はほとんどが講義で実習が少なく、実際に子ども達と関わる時間があまりなかったのですが、2回生になり実習が増え様々な園で実習させて頂きました。

日案や週案等の案の立て方を覚え、園での行事に参加させて頂いたりで、子ども達と接する事だけでなく色々な経験が出来、勉強になりました。

幼児期の大切な時期を子どもと関わる保育者は本当に難しいものだと感じさせられました。

7. 合同研修会について

まだ日本での生活に慣れる前に、各研修先へ行く研修生にとっては、合同研修会は何よりの楽しみだと思います。それぞれの研修先での悩みや意見交換等ができる機会でもあり本当に重要なものだと思います。

私は一度大学の試験とかち合い参加せず残念でしたが、一年後に仲間と会った時は、本当に嬉しかったです。

8. 本邦での生活状況

一年目は女子寮から大学に通い、2年目はアパートに変わりました。大学へは自転車で7、8分と近く便利で不自由を感じる事はありませんでした。

夏はものすごく暑く夏バテもしましたが、食べ物や日常会話で困る事はありませんでした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これから先、大学や専門学校で正規の学生として学ばれる研修生が増えていると思いますが、日本語をどれだけ理解できるかは本当に大切な事だと思います。

日本に来て何をしたいか、研修目的をはっきり持っておく事も大事だと思います。

10. 所 感

2年前緊張いっぱい試験を受け、大学に入学をしてから早くも2年が過ぎ、無事卒業する事ができました。

帰国後、幼稚園につとめる事になると思いますが、この2年間で学んだ事、経験した事を生かして頑張りたいと思っています。決して自分の考えを子どもに押しつけるのではなく、いつも子どもの気持ちになって、子どもの気持ちを理解できる保育者になれるように努力していきたいと思っています。

国際協力事業団の皆様方をはじめ、大学の先生方や友人に心より感謝しています。本当にありがとうございました。



1. 研修機関 (1) 前期 } 高知女子大学保育短期大学部
(2) 後期 }
2. 研修期間 平成元年4月～3年3月
3. 研修職種 幼児教育

4. 当初の研修計画

保母の免許を取得するため。

5. 研修概要

平成元年度及び2年度の所定の授業科目を学び、単位を得た。

授業科目

哲学Ⅰ、歴史学、文学Ⅰ、Ⅱ、特論、音楽、法学、心理学Ⅰ、Ⅱ、社会学Ⅰ、特論、経済学、統計学、生物学Ⅰ、特論、英語、社会福祉、教育原理、保育原理、養護原理Ⅰ、同和教育、障害児教育Ⅰ、Ⅱ、臨床心理学、児童心理学、教育心理学、小児保健実習、精神衛生、小児栄養（実習含む）、家庭管理、健康Ⅰ、社会、自然、言語Ⅰ、Ⅱ、音楽リズム、絵画製作Ⅰ、Ⅱ、乳児保育Ⅰ、音楽Ⅰ、Ⅱ、図画工作、体育

実 習

保育実習Ⅰ

学内実習及び施設実習（愛童園にて）

保育実習Ⅱ

（丸ノ内保育園にて）

保育実習Ⅲ

（南海学園にて）

教育実習

（聖母幼稚園にて）

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

実習が少なく、特に音楽関係は実技的なことができなかったことが残念です。

7. 合同研修会について

同期生が集まり、とても良いことだと思います。大学生のために今年のはじめて7月に行ったのですが、私達としてはうれしかったです。今後は同じ九州のセンターで行われるかどうかが問題ではないでしょうか。

8. 本邦での生活状況

レトルト食品や、インスタント製品等が数多くありますので、そちらに頼りがちでした。

便利になっているので、生活は困ることはありませんでした。ただ、人間関係がむずかしいの

で悩みました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

後期にはいって体調をくずしてしまった私の経験から、本当に一人でなく二人で同じ場所に来ていて良かったと思いました。

10. 所 感

長いようで短かった2年間、1年目よりは2年目の方が楽なはずなのに体調をくずしてしまい皆に迷惑をかけてしまった事が残念です。大学の諸先生方、JICA支部や本部の方々に感謝しています。

インフレなどで生活が大変な状態のパ国ですが、帰国後は就職活動に頭を悩ませそうです。

2年間私を支えてくださった方々に心よりお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。



四 方 美 紀 子

1. 研修機関 (1) 前期 名古屋市立栄養専門学校
(2) 後期 同 上
2. 研修期間 1989年4月～1991年3月
3. 研修職種 栄養学

4. 当初の研修計画

食事のとり方を注意したり、栄養のバランスを考える事で健康的な生活が送れると思っていたので肉にかたよりがちな食生活にもう少し身近で取れるもので代用できないかを知りたかった。

又、近年移住地でも増えつつある成人病（高血圧、糖尿病 etc）が薬だけでなく、食事によっても改善される事を学びたかった。

5. 研修概要

前 期

- ・栄養学総論でビタミン、ミネラル、タンパク質等が体に及ぼす作用。
- ・食品学総論・各論で食品中に含まれる栄養素
- ・食品衛生でカビ、微生物による害（食中毒）や食品中に混入しうる異物に対する注意。
- ・食生活論で日本食文化（過去～現在までの流れ。）
- ・保健体育で、摂取したエネルギーの働き……

等を主に講義で学んだ。

後 期

- ・生化学で消化された栄養素の利用に関する酵素、またそれらが存在する回路の働き。

- ・解剖生理学で身体の構造、神経の運動等
 - ・公衆衛生学で水質、空気、疫学、微生物、カビ、農薬、環境（公害）等
 - ・食品加工学で食品の加工性、また実習でパン、こんにゃく、ジャム、ソーセージ、グルタミン酸を作った。
 - ・指導実習で媒体を使って指導の練習をする。
 - ・臨床栄養学で病気の特徴、それに適する食事、また実際に献立をたて、試食もした。
 - ・校外実習で1週間ずつ病院、学校、保健所での栄養士業務を研修した。また、別に1ヶ月間保健所へ実習に行き栄養士のみだけでなく歯科衛生士、保健婦等の指導も実習させてもらった。
6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して
- 大豆製品などを主に勉強してみたいと思っていたが、栄養学をはじめてみるとそれ以上に大切なことがあった。
- 自分が本当にやりたい事があまりにも漠然としすぎていたが、2年間学校で勉強してみて本当に大切な事が少しわかったので最初思っていたより、よい研修ができたと思っている。
7. 合同研修会について
- 合同研修会は研修生たちにとって必要だと思います。
- ただ、今年の研修会みたいに1人、1人のへやにいれられてしまっただけでは情報交換もあまりできなかったのが残念です。
- 期間も短かったためいそがしかったが、研修会はみんなに会える唯一の機会なので楽しかったです。
8. 本邦での生活状況
- 2年間こまったな……と思う事もなく無事終わりました。
9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項
- 研修に来る前から日本語の読み書きは（小6程度は）できるようになっていたほうが良いと思う。
- 仕事、勉強するのと同じぐらい友達をつくるようにしたらいいと思う。
10. 所 感
- 本当に2年間たつのが早かった。一ヶ月の日本語講習も受けなくて研修さきに行き、右や左も分からないまま学校もはじまった。
- とにかく卒業、免許の取得を目標としていたので今、それを達成する事ができてよかったと思っている。
- 帰国後の抱負といってもまだまだ未熟なわたしですが、これからも勉強して、今までの知識を深めて、コロナのためにいかしたいと思っています。
- 国際協力事業団、また学校の皆様本当にお世話になりました。どうもありがとうございました。

第19回移住者子弟一般技術研修員一覽表

平成元年度（第19回）移住者子弟

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種
1	アルゼンティン	ホセC. パス市	井上 大伸	男	1964. 9. 17 (24)	アルゼンティン	佐賀	花卉園芸
2		モレーノ	佐々木 大伸	男	1966. 10. 16 (22)	アルゼンティン	岩手	花卉園芸
3		エル・パット	皆川政人	男	1968. 2. 3 (21)	両国	東京	自動車整備
4		アンデス	片岡 大伸	男	1966. 9. 3 (22)	両国	佐賀	家電修理
5	ボリヴィア	サン・ファン	池田 勇人	男	1968. 7. 19 (20)	両国	佐賀	養鶏
6	※	オキナワ第1	比嘉 はるみ	女	1969. 2. 18 (20)	両国	沖縄	看護学
7		オキナワ第2	山城 淳	男	1966. 7. 30 (22)	両国	沖縄	食肉加工
8		オキナワ第1	比嘉 久美	女	1969. 5. 21 (19)	両国	沖縄	幼児教育
9	ブラジル (ベレーン)	イガラッベアス	大村昭仁	男	1969. 1. 27 (20)	ブラジル	山梨	農業機械修理
10	※	ベレーン	清水 祐夫	男	1966. 2. 10 (23)	ブラジル	三重	コンピュータ
11		マナオス	村上 賢治	男	1967. 9. 30 (21)	両国	宮城	家電修理
12	(ブラジル)	インクラ (方刈7市郊外)	早川千恵美	女	1965. 10. 11 (23)	ブラジル	北海道	果樹
13	(リオ・デ・ ジャネイロ)	ペロ・オリソッテ	梶 寛希	男	1970. 3. 18 (19)	ブラジル	東京	コンピュータ

一般技術研修員（前期）

研修期間：1989. 4. 3～1990. 3. 31
 ただしペルーの2人は1989. 4. 5～1990. 3. 31
 年 齢：1989. 4. 3現在

研 修 機 関	〒	所 在 地	代表者名	TEL
(1) 香川大学農学部	761-07	香川県木田郡三木町池戸2393	農学部長 岡 市 友 利	08789-8-1411
(2) 同附属農場	769-23	香川県大川郡長尾町昭和字谷 乙300-2	農場長 吉 田 博	0879-52-2763
岡山大学農学部	700	岡山県岡山市津島中1-1-1	農学部長 長 堀 金 造	0862-52-1111
神奈川県経済農業協同組合 連合会中部自動車センター	254	神奈川県平塚市田村1323	所長 近 藤 清 太	0463-55-2860
(1) 旭無線商会	849-05	(1) 佐賀県杵島郡江北町山口 1717	代表取締役 城 島 一 彦	0952-86-2383
(2) 株式会社 ムラウチ	192	(2) 東京都八王子市大和田町 5-1-21	取締役社長 村 内 寿 一	0426-42-6221
佐賀県中部家畜保健衛生所	840-01	佐賀県佐賀市若楠2-7-4	所長 南 川 禮 次	0952-31-2211
(1) 神奈川県衛生看護専門 学校	235	神奈川県横浜市磯子区東町 6-13	校長 川 口 良 平	045-753-2401
(2) 同付属病院	235	神奈川県横浜市磯子区汐見台 1-6-5	院長 松 本 文 夫	045-761-3581
(1) アジアハム(株)	901-05	沖縄県志頭村具志頭1791	代表取締役 社長 鈴 木 茂 雄	098998-2266
(2) (株)ホームル	901-24	沖縄県中城村字当間758	代表取締役 社長 末 続 桂 吾	09889-5-3311
和泉短期大学	229	神奈川県相模原市青葉2-2-1	学長 花 村 春 樹	0427-54-1133
神奈川県経済農業協同組合 連合会平塚市中央農業協同 組合経済センター	259-12	神奈川県平塚市片岡657	参事 小 宮 軍 平	0463-58-7799
サンコンピュータビジネス 専門学校	514	三重県津市広明町333	学園長 鈴 木 齋	0592-25-6253
松下電器産業(株)教育訓練 センター海外研修所	573	大阪府枚方市菊丘南町2-10	所長 浮 田 順 一	0720-44-1881
世羅幸水農園	722-11	広島県世羅郡世羅町本郷 365-20	組合長理事 矢 山 勉	08472-2-2219
東芝エンジニアリング 株式会社	210	神奈川県川崎市幸区堀川町 66-2	取締役社長 松 井 秀 行	044-548-3111

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種
14		クビチエック	船木 正行	男	1967. 8. 4 (21)	ブラジル	青森	しいたけ栽培
15	(サン・パウロ)	サン・パウロ	高橋 巖 祐	男	1963. 10. 28 (25)	ブラジル	秋田	熱工学
16		サン・パウロ	佐々木 明 寿	女	1964. 7. 9 (24)	ブラジル	広島	栄養学
17		ピラルド・スール	豊田陽子 ソニヤ	女	1966. 7. 10 (22)	ブラジル	栃木	助産婦
18		サン・パウロ	安立 哲 隼 (1989. 6. 16) 〔早期帰国〕	男	1962. 2. 9 (27)	ブラジル	北海道	製 鉄
19		グェクバラ	佐伯博幸 ジルソ	男	1969. 8. 5 (19)	ブラジル	熊本	畳製造
20		モジダス・カージェス	角本忠義 祐 (1989. 4. 7. 来日)	男	1967. 4. 15 (21)	ブラジル	熊本	花卉栽培
21		カッボン・ボニート	須田健示 加ロス (1989. 4. 7. 来日)	男	1965. 2. 15 (24)	ブラジル	鹿児島	蔬菜・果樹
22		バストス	高橋 稔 ジョウ (1989. 4. 7. 来日)	男	1964. 8. 20 (20)	ブラジル	愛媛	養鶏・果樹
23		モジダス・カージェス	鈴木 セリナ (1989. 4. 7. 来日)	女	1968. 3. 27 (21)	ブラジル	山形	蔬 菜
24		マリアルバ	国府三郎 ルイス (1989. 4. 7. 来日)	男	1968. 9. 22 (26)	ブラジル	宮崎	果 樹
25	コロンビア	カ リ	古賀百合 祐アハラ	女	1960. 11. 16 (28)	両 国	福岡	コンピューター
26	ドミニカ共和国	サント・ドミンゴ	八巻 和 雄	男	1963. 10. 10 (25)	両 国	福島	コンピューター
27	メキシコ	メキシコ	小林 ハニト	男	1969. 10. 5 (19)	メキシコ	長野	野菜・果樹

研 修 機 関	〒	所 在 地	代表者名	TEL
青森県林業試験場	039-33	青森県東津軽郡平内町大字 小湊字新道46-56	場長 松田 富士雄	0177-5-3257
三菱重工(株)長崎造船所	850-91	長崎県長崎市飽の浦町1-1	所長 宮 崎 晃	0958-28-4111
(1) 県立広島病院	734	(1) 広島県広島市南区宇品 神田	院長 城 智 彦	082-254-1818
(2) 広島県廿日市保健所	738	(2) 広島県廿日市市桜尾 2-2-68	所長 南 典 昭	0829-32-1141
神奈川県母子保健センター	221	神奈川県横浜市神奈川区桐畑 1-1	院長 常 木 長 和	045-321-3058
室蘭工業大学	050	北海道室蘭市水元町27-1	学長 小 林 晴 夫	0143-44-4181
熊本県畳工業組合	862	熊本県熊本市水前寺6-41-5	理事長 深 浦 昭 八 郎	096-385-5338
(社) 国際農業者交流協会	100	東京都千代田区有楽町1-13-2 (~ 89. 12. 23)	会長 大河原 良雄	03-3212-0461 03-5703-0251
	144	東京都大田区蒲田5-39-2 (89. 12. 23)		
	(281)	(千葉県千葉市園生町510)	(高木浩二郎)	(0472-53-0546)
(社) 国際農業者交流協会	144	東京都大田区蒲田5-39-2	会長 大河原 良雄	03-5703-0251
	(252)	(神奈川県藤沢市長後437)	(井上和弘)	(0466-44-2351)
(社) 国際農業者交流協会	144	東京都大田区蒲田5-39-2	会長 大河原 良雄	03-5703-0251
	(287-01)	(千葉県香取郡栗源町沢1834)	(小倉睦夫)	(0478-75-3028)
(社) 国際農業者交流協会	144	東京都大田区蒲田5-39-2	会長 大河原 良雄	03-5703-0251
	(436-04)	(静岡県小笠郡大東町中4823)	(渡辺守男)	(0537-74-2059)
	(411)	(静岡県駿東郡長泉町南一色 41-1)	(長田静男)	(0559-87-3503)
(社) 国際農業者交流協会	144	東京都大田区蒲田5-39-2	会長 大河原 良雄	03-5703-0251
	(400-13)	(山梨県東八代郡八代町米倉 810)	(根津勝利)	(0552-65-2211)
	(409-38)	(山梨県中巨摩郡田富町今福 283)	(田中 久)	(0552-73-3495)
ユニバーサル電子計算 株式会社	150	東京都渋谷区恵比寿1-18-14	代表取締役 橋 本 勲	03-3444-7731
東北大学電気通信研究所	980	宮城県仙台市青葉区片平 2-1-1	所長 岩 崎 俊 一	022-223-4488
長野県南安曇農業高等学校	399-82	長野県南安曇郡豊科町大字 豊科4537	校長 嶋 岡 一 蔵	0263-72-2139

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種
28	パラグアイ	ラ・コルメナ	宮本浩一 <small>みやもとこういち</small>	男	1970. 3. 24 (19)	パラグアイ	熊本	果樹
29	※	バドロ・フィソ・ ガバリェロ	門脇徳美 <small>かどわきのりみ</small>	女	1968. 11. 3 (20)	両国	高知	幼児教育
30	※	エンカルナシオン	宇都本 恵 <small>うつもと めぐみ</small>	女	1968. 1. 28 (21)	両国	愛媛	幼児教育
31	※	アルト・ハラナ	四方美紀子 <small>よしかた みきこ</small>	女	1968. 5. 16 (20)	パラグアイ	愛知	栄養学
32	ペルー	ブカルパ	渡辺正寿 <small>わたなべ まさとし</small>	男	1958. 12. 29 (30)	ブラジル	福島	養豚
33		リマ	宮崎アハツロ <small>みやざき あつろ</small>	男	1965. 12. 6 (23)	ペルー	熊本	コンピュータ
34	在ウルグアイ 日本国大使館	モンテビデオ	宇田川智代 <small>うだがわ ともよ</small>	女	1967. 6. 17 (21)	日本	東京	植物組織培養
35	在ヴェネズエラ 日本国大使館	カラカス	児玉寿夫 <small>こだまとしお</small>	男	1966. 8. 22 (22)	両国	静岡	自動車工学

研 修 機 関	〒	所 在 地	代表者名	TEL
山梨県果樹試験場	405	山梨県山梨市万力1530	場長 雨宮 毅	0553-22-1921
高知女子大学保育 短期大学部	780	高知県高知市大原町132	学長 木原 正雄	0888-33-2918
高知女子大学保育 短期大学部	780	高知県高知市大原町132	学長 木原 正雄	0888-33-2918
名古屋市立栄養専門学校	467	愛知県名古屋市瑞穂区荻山町 1-11	学院長 水野 達也	052-841-4431
福島県畜産試験場	960-21	福島県福島市荒井字地藏原甲 18	場長 橋本 清寿	0245-93-1221
(株)富士通南九州システム エンジニアリング	860	熊本県熊本市細工町4-30-1	代表取締役 葛西 建男	096-326-2511
(1) 香川大学農学部	761-07	香川県木田郡三木町池戸2393	農学部長 岡市 友利	0878-98-1411
(2) 同附属農場	769-23	香川県大川郡長尾町昭和字谷 乙300-2	農場長 吉田 博	0879-52-2763
トヨタ自動車(株) (1) 高岡工場	473	愛知県豊田市本田町三光1	工場長 池淵 浩介	0565-52-1212
(2) 上郷工場	470-12	愛知県豊田市大成町1	工場長 好川 純一	0565-21-1515

平成元年度（第19回）移住者子弟

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種
1	アルゼンティン	ホセC. パス市	井上 利伸	男	1964. 9. 17 (25)	アルゼンティン	佐賀	花卉園芸
2		モレーノ	佐々木 利伸	男	1966. 10. 16 (23)	アルゼンティン	岩手	花卉園芸
3		エル・パット	皆川政人	男	1968. 2. 3 (22)	両国	東京	自動車整備
4		アンデス	片瀬 利伸	男	1966. 9. 3 (23)	両国	佐賀	家電修理
5	ボリヴィア	サン・ファン	池田 勇人	男	1968. 7. 19 (21)	両国	佐賀	養 鶏
6	※	オキナワ第1	比嘉 はるみ	女	1969. 2. 18 (21)	両国	沖縄	看護学
7		オキナワ第2	山城 淳	男	1966. 7. 30 (23)	両国	沖縄	食肉加工
8		オキナワ第1	比嘉 久美	女	1969. 5. 21 (20)	両国	沖縄	幼児教育
9	ブラジル (ベレーン)	イガラッパアス	大村昭仁	男	1969. 1. 27 (21)	ブラジル	山梨	農業機械修理
10	※	ベレーン	清水 靖夫	男	1966. 2. 10 (24)	ブラジル	三重	コンピュータ
11		マナオス	村上 賢治	男	1967. 9. 30 (22)	両国	宮城	家電修理
12	(ブラジル)	インクラ (ワ列ア市郊外)	早川千恵美	女	1965. 10. 11 (24)	ブラジル	北海道	果 樹
13	(リオ・デ・ ジャネイロ)	ペロ・オリゾンテ	梶 寛希	男	1970. 3. 18 (20)	ブラジル	東京	コンピュータ
14		クビチェック	船 木 正行	男	1967. 8. 4 (22)	ブラジル	青森	しいたけ栽培

一般技術研修員（後期）

研修期間：1990. 4. 1～1990. 9. 28
 ただし※印5名は1990. 4. 1～1991. 3. 28
 年 齢：1990. 4. 1現在

研 修 機 関	〒	所 在 地	代表者名	TEL
田坂洋蘭園	701-12	岡山県岡山市今岡558	田坂幸夫	0862-84-1877
岩手園芸試験場	024	岩手県北上市飯豊町字成田 20-1	場長 伊藤明治	0197-68-2331
神奈川県経済農業協同組合 連合会中部自動車センター	254	神奈川県平塚市田村1323	所長 近藤清太	0463-53-1585
株式会社 ムラウチ	192	東京都八王子市大和田町 5-1-21	取締役社長 村内寿一	0426-42-6221
(1) 佐賀県中部家畜保健 衛生所	840-01	佐賀県佐賀市若楠2-7-4	所長 今村重春	0952-31-2211
(2) 株式会社経済連総合食品	849-05	佐賀県杵島郡江北町上小田 4383	代表取締役 佐々木昇	0952-86-2747
(3) 佐賀県畜産試験場	849-23	佐賀県杵島郡山内町宮野 23242	場長 舟木彬介	0954-45-2030
(1) 神奈川県衛生看護専門 学校	235	神奈川県横浜市磯子区東町 6-13	校長 川口良平	045-753-2401
(2) 同付属病院	235	神奈川県横浜市磯子区汐見台 1-6-5	院長 松本文夫	045-761-3581
沖縄畜産株式会社	901-11	沖縄県島尻郡南風原町字新川 473	代表取締役 社長 豊里勝一	0988-89-0902
和泉短期大学	229	神奈川県相模原市青葉2-2-1	学長 花村春樹	0427-54-1133
神奈川県経済農業協同組合 連合会平塚市中央農業協同 組合経済センター	259-12	神奈川県平塚市片岡657	経済部長 小沢辰雄	0463-58-7799
サンコンピュータビジネス 専門学校	514	三重県津市広明町333	学園長 鈴木 齋	0592-25-6253
松下電器産業(株)教育訓練 センター海外研修所	573	大阪府枚方市菊丘南町2-10	所長 浮田順一	0720-44-1881
世羅幸水農園	722-11	広島県世羅郡世羅町本郷 365-20	組合長理事 矢山 勉	08472-2-2219
東芝エンジニアリング 株式会社	210	神奈川県川崎市幸区堀川町 66-2	取締役社長 吉島重和	044-548-3111
青森県林業試験場	039-33	青森県東津軽郡平内町大字 小湊新道45-56	場長 中野 彬	0177-5-3257

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種
15	(サン・パウロ)	サン・パウロ	たか ばし いわお 高橋 巖 祐子	男	1963. 10. 28 (26)	ブラジル	秋 田	熱工学
16		サン・パウロ	ささき きよこ 佐々木 巧 世子	女	1964. 7. 9 (25)	ブラジル	広 島	栄養学
17		ビラルド・スール	とよだ ようこ 豊田陽子 ソニト	女	1966. 7. 10 (23)	ブラジル	栃 木	助産婦
18		サン・パウロ	あ だち あきら 安立 哲 弘 (1989. 6. 16) (早期帰国)	男	1962. 2. 9 (28)	ブラジル	北海道	製 鉄
19		グァタバラ	さき ひろゆき 佐伯博幸 ヲソ子	男	1969. 8. 5 (20)	ブラジル	熊 本	畳製造
20		モジダス・カージェス	かどもとたけし 角本忠義 祐子 (1989. 4. 7. 来日)	男	1967. 4. 15 (22)	ブラジル	熊 本	花卉栽培
21		カッポン・ポニート	す だ けんじ 須田健示 カロス (1989. 4. 7. 来日)	男	1965. 2. 15 (25)	ブラジル	鹿児島	蔬菜・果樹
22		バ ス ト ス	たかばし たけし 高橋 稔 ジョン (1989. 4. 7. 来日)	男	1964. 8. 20 (25)	ブラジル	愛 媛	養鶏・果樹
23		モジダス・カージェス	すずき 鈴木 セリーナ (1989. 4. 7. 来日)	女	1968. 3. 27 (22)	ブラジル	山 形	蔬 菜
24		マリアルバ	こくふさおさむ 国府三郎 ルイス (1989. 4. 7. 来日)	男	1962. 9. 22 (27)	ブラジル	宮 崎	果 樹
25	コロンビア	カ リ	こがゆかり 古賀百合ルイスハラ	女	1960. 11. 16 (29)	両 国	福 岡	コンピュータ
26	ドミニカ共和国	サント・ドミンゴ	や まき かず お 八 巻 和 雄	男	1963. 10. 10 (26)	両 国	福 島	コンピュータ
27	メキシコ	メキシコ	こばやし 小林 ハニト	男	1969. 10. 5 (20)	メキシコ	長 野	野菜・果樹
28	パラグアイ	ラ・コルメナ	みやもとこういち 宮本浩一トウワル	男	1970. 3. 24 (20)	パラグアイ	熊 本	果 樹
29	※	ベドロ・フィッ ガバリェロ	かど わき のり み 門 脇 徳 美	女	1968. 11. 3 (21)	両 国	高 知	幼児教育
30	※	エンカルナシオン	うつもと 宇都本 恵	女	1968. 1. 28 (22)	両 国	愛 媛	幼児教育

研 修 機 関	〒	所 在 地	代表者名	TEL
三菱重工(株)長崎造船所	850-91	長崎県長崎市飽の浦町1-1	所長 六尾和照	0958-28-4111
広島市安佐南保健所	731-01	広島県広島市安佐南区古市 1-33-14	所長 為重哲雄	082-877-2111
神奈川県母子保健センター	221	神奈川県横浜市神奈川区桐畑 1-1	院長 常木長和	045-321-3058
室蘭工業大学	050	北海道室蘭市水元町27-1	学長 小林晴夫	0143-44-4181
熊本県畳工業組合	862	熊本県熊本市水前寺6-41-5	理事長 深浦昭八郎	096-385-5338
社団法人国際農業者交流協会	100	東京都大田区蒲田5-39-2	会長 大河原良雄	03-5703-0251
	(281)	(千葉県千葉市国生町510)	(高木浩二郎)	(0472-53-0546)
同 上	(289-11)	(千葉県印旛郡八街町山田台 1240-4)	(藤代 肇)	(0434-45-3212)
同 上	(287-01)	(千葉県香取郡栗源町沢1834)	(小倉睦夫)	(0478-75-3028)
同 上	(413-04)	(静岡県賀茂郡東伊豆町稲取 2638-2)	(山田弘志)	(0557-95-0044)
同 上	(470-11)	(愛知県豊明市沓掛町 山新田42-2)	(横山賢一)	(0562-92-5228)
ユニバーサル電子計算(株)	150	東京都渋谷区恵比寿1-18-14	代表取締役 橋本 勲	03-3444-9188
東北大学電気通信研究所	980	宮城県仙台市青葉区片平 2-1-1	所長 岩崎俊一	022-223-4488
長野県果樹試験場	382	長野県須坂市小河原492	場長 小林祐造	0262-46-2411
山梨県果樹試験場	405	山梨県山梨市万力1530	場長 原田 昭	0553-22-1921
高知女子大学保育 短期大学部	780	高知県高知市大原町132	学長 木原正雄	0888-33-2918
高知女子大学保育 短期大学部	780	高知県高知市大原町132	学長 木原正雄	0888-33-2918

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種
31	※	アルト・ハラナ	よもみきこ 四方美紀子	女	1968. 5. 16 (21)	パラグアイ	愛知	栄養学
32	ペルー	プカルパ	わたへまきし 渡辺正寿 ロベルト クロービス	男	1958. 12. 29 (31)	ブラジル	福島	養豚
33		リマ	みやざき 宮崎ハワード	男	1965. 12. 6 (24)	ペルー	熊本	コンピュータ
34	在ウルグアイ 日本国大使館	モンテビデオ	うだわともよ 宇田川智代	女	1967. 6. 17 (22)	日本	東京	植物組織培養
35	在ヴェネズエラ 日本国大使館	カラカス	児玉寿夫ハワード	男	1966. 8. 22 (23)	両国	静岡	自動車工学

研 修 機 関	〒	所 在 地	代表者名	TEL
名古屋市立栄養専門学院	467	愛知県名古屋市瑞穂区萩山町 1-11	学院長 鈴木春美	052-841-4431
有限会社郷畜産	961	福島県白河市大字双石字 坊の入115	代表取締役 郷文隆	0248-22-1525
(株)富士通南九州システム エンジニアリング	860	熊本県熊本市細工町4-30-1	代表取締役 葛西建男	096-326-2511
(1) 香川大学農学部	761-07	香川県木田郡三木町池戸2393	農学部長 谷利一	08789-8-1411
(2) 同附属農場	769-23	香川県大川郡長尾町昭和字谷 乙300-2	農場長 北川博敏	0879-52-2763
トヨタ自動車(株) (1) 上郷工場	470-12	愛知県豊田市大成町1	工場長 好川純一	0565-21-1515
(2) 日進研修センター	470-01	愛知県愛知郡日進町大字折戸 字福地85-1	海外サービス 部部长 小川徳男	05617-3-9161
(3) 元町工場	471	愛知県豊田市元町1	工場長 高橋朗	0565-28-3232

ゆ う か り

© Kokusai Kyoryoku Jigyodan 1991

1991年11月30日 発行

編集兼

国際協力事業団 移住事業部 国内事業課

発行者

〒163 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号

新宿三井ビル内 私書箱 216号

電 話 (03) 3346-5311 (代表)

印刷・製本 有限会社 盛光印刷所

〒102 東京都千代田区飯田橋4-6-3

電 話 (03) 3264-1851

AKA

